

東京家政大学 学修・教育開発センター

CRED通信

クレッド

増刊号

2020.10

「自主自律の学び」を研究・支援します。

ONLINE LESSON

前期

オンライン授業の
ふりかえり



CONTENTS

MESSAGE

井上俊哉

(人文学部心理カウンセリング学科教授

学修・教育開発センター 所長)……………02

CRED COLUMN

01 教育心理学

子ども家庭支援の心理学

佐藤隆弘 (家政学部 児童学科)……………03

02 育児支援特講A

武田洋子 (家政学部 児童学科)……………03

03 理科教育法

関根正弘 (家政学部 児童教育学科)……………04

04 道德教育の研究

走井洋一 (家政学部 児童教育学科)……………04

05 教養としての歴史

中尾浩康 (家政学部 児童教育学科)……………05

06 情報活用

天野美穂子 (家政学部 児童教育学科)……………05

07 食品化学実験I

海老塚広子 (家政学部 栄養学科)……………06

08 解剖生理学I

太田一樹 (家政学部 栄養学科)……………06

09 臨床病態生理学

澤田めぐみ (家政学部 栄養学科)……………07

10 食品機器分析化学実験・(オムニバス科目)重村担当回

重村泰毅 (栄養科)……………07

11 環境分析実験II

井上宮雄 (家政学部 環境教育学科)……………08

12 生物学A

藤森文啓 (家政学部 環境教育学科)……………08

13 被服繊維学

大井龍 (家政学部 服飾美術学科)……………09

14 ファッションアクセサリー論

沢尾絵 (家政学部 服飾美術学科)……………10

15 被服材料学

濱田仁美 (家政学部 服飾美術学科)……………10

16 西洋服飾文化史

沢尾絵 (家政学部 服飾美術学科)……………11

17 被服材料学実験II

濱田仁美 (家政学部 服飾美術学科)……………11

18 ニットI

大塚有里 (家政学部 服飾美術学科)……………12

19 美術と環境

曾根博美 (家政学部 造形表現学科)……………12

20 織物I

大木敦子 (家政学部 造形表現学科)……………13

21 グラフィックデザインI

有馬十三郎 (家政学部 造形表現学科)……………13

22 英語学概論A

根本真行 (人文学部 英語コミュニケーション学科)……………14

23 英語科教育法II

太田洋 (人文学部 英語コミュニケーション学科)……………14

24 情報システム演習

小池新 (人文学部 英語コミュニケーション学科)……………15

25 観光事業演習I

塙泉 (人文学部 英語コミュニケーション学科)……………16

26 教育・学校心理学

三浦正江 (人文学部 心理カウンセリング学科)……………17

27 心理的アセスメント

齊藤和貴 (人文学部 心理カウンセリング学科)……………17

28 心理学概論

平野真理 (人文学部 心理カウンセリング学科)……………18

29 社会福祉演習 (田中)

田中恵美子 (人文学部 教育福祉学科)……………18

30 社会福祉概論

平戸ルリ子 (人文学部 教育福祉学科)……………19

31 成人看護方法論I (慢性期)

太田美帆 (健康科学部 看護学科)……………19

32 看護の基本技術II

松江なるえ (健康科学部 看護学科)……………20

33 成人看護方法論I (慢性期)

瀧田結香 (健康科学部 看護学科)……………20

34 理学療法概論

齋藤昭彦 (健康科学部 リハビリテーション学科)……………21

35 身体機能作業療法学

斎藤和夫 (健康科学部 リハビリテーション学科)……………21

36 摂食・嚥下機能学

久篠奈苗 (健康科学部 リハビリテーション学科)……………22

37 理学療法評価学I

齊藤展士 (健康科学部 リハビリテーション学科)……………22

38 神経科学

宮島祐 (子ども学部 子ども支援学科)……………23

39 情報機器の操作

水野雅之 (子ども学部 子ども支援学科)……………24

40 相談援助

阿部崇 (子ども学部 子ども支援学科)……………24

41 健康保育B (病児・病後児保育)

宮島祐 (子ども学部 子ども支援学科)……………25

42 子どもの造形II

保坂遊 (子ども学部 子ども支援学科)……………26

43 食品学各論

重村泰毅 (栄養科)……………27

44 基礎栄養学

田地陽一 (家政学部 栄養学科)……………27

45 調理科学実験

小林理恵 (家政学部 栄養学科)……………28

46 子ども家庭支援論

平野順子 (保育科)……………29

47 教育原論

鵜飼篤 (保育科)……………29

令和2年度前期の苦心・工夫はこれからの授業設計に活きる

新型コロナウイルスによる国内初の感染者が確認されたのが1月中旬、令和元年度の授業がほぼ終了する時期でした。令和2年度の授業について当初は感染拡大防止のため密を避けることに留意しつつ対面授業を行うこととして実施方針を策定しましたが、3月下旬以降の首都圏における感染拡大、亡くなる方の増加などから、4月に入り急遽、前期授業開始を遅らせたうえで前期期間中はすべてオンラインで授業を実施することが決定しました。その後、前期授業開始まで約1ヶ月の準備期間しがなく、ほとんどの教員がオンライン授業初体験であったにも関わらず、前期授業期間を乗り越えることができました。授業に関わった学生、教員、側面から支えた職員の潜在力と努力の証、協力の賜であり、まずはお疲れ様と声を掛け合いたいところです。

さて、前期授業終了後(8月上旬)、前期オンライン授業に関して学生アンケートを実施しました。概要はすでに教授会などでご報告しましたが、アンケートでは、「前期に受けた授業の中で学びやすく学修成果が得られると感じた授業」の科目名と担当者名も回答してもらいました。多くの学生から名前が挙がった授業を全学科・科から選び、それらの授業を担当された方に、「採用した授業タイプ」、「1回当たりの授業時間の想定」、「授業準備に際して重視したこと」、「授業中に用いたツール」、「授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェア」、「成績評価の方法」、「1回分の授業準備にかけた時間」などの観点から、前期の実践についてご報告いただきました。

執筆してくださった先生方、どうもありがとうございました。報告は速やかに共有するために順次manabaコースで公開してきましたが、ここにあらためてCRED通信増刊号としてお届けします。

どの報告からも共通して読み取れるのは、学生たちが学びを深めるにはどうしたらよいかという配慮です。オンデマンド配信や資料・課題提示タイプの授業を準備する際には、学生がどんな学修行動をとるか、学修の中でどんな疑問を持つか、どうすればモチベーションを維持できるか等を想定しながら授業を設計することがきわめて大切です。リアルタイムに配信する授業でも、履修者の様子をその場で体感し臨機に対応することが対面授業より難しく、授業前の授業設計が重要になります。先生方の報告を読むと、学生の学修行動を予想し、学生の戸惑いを減らし学修に集中できるようにする配慮、丁寧なフィードバックなど、学修者の身になって毎回の授業を入念に構成されていることがわかります。授業設計の発想は、実は対面授業でも重要なものです。先生方に書いていただいたのは前期オンライン授業に関する実践報告であり、令和2年度後期のオンライン授業に役立てていただきたいというのが第一義ではありますが、対面授業を実施するときにも大いに参考になる大切な要素を含んでいるように思います。どうぞご活用ください。

井上 俊哉 Shunya Inoue

人文学部心理カウンセリング学科教授
学修・教育開発センター 所長

教育心理学

子ども家庭支援の心理学

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

昨年度の授業で用いたPowerPoint資料を作り直し、ナレーションを録音してから動画に変換してYouTubeで限定配信しました。また、動画をうまく見られなかった場合に備えてPDF版のスライド資料を配布し、manabaの小テスト・レポートも出題しました。

●1回当たりの学修時間の想定

1回の授業で、6～15分程度の動画資料を3～4本用意しました。動画の再生時間だけでなく全体で30～45分程度でしたが、小テストやまとめのレポート、ノートテイキングの時間を含めて、授業時間は90分前後と想定します。授業外学習はシラバスで200分行うことを求めましたが、実際に学生がそれだけの時間をかけることは難しかったと思います。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

オンライン授業が続くことで学生が疲弊するという懸念がありましたので、普段の対面授業と同じ範囲の内容をなるべくコンパクトにまとめ、簡潔でわかりやすい説明になるよう考慮しました。また、対面授業のようにポインターで指示しながら話すことができないので、PowerPointのアニメーション機能をうまく使って表現しました。

●授業中に用いたツール

manaba（小テスト、レポート、個別指導（コレクション）、respon）、YouTube

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ノートPC、PowerPointなど

●成績評価の方法

manabaで実施した期末テストと毎回の小テストの成績、レポートの提出状況から総合的に評価しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

昨年まで使っていた資料を修正して動画にする作業と、manabaの問題の設定などを含めて10時間前後。



Writer

佐藤隆弘准教授
Takahiro Sato家政学部
児童学科

育児支援特講A

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分を想定。授業外学修については、時間の想定が難しかったため、学生に対して課題を提示する際、何をどのような目的で行うかを明示し、学生が取り組みやすいよう配慮しました。また、その内容については、授業時間内に提示した内容をしっかりと学修しておかないと、十分には取り組みにくい内容とすることで、授業時間内学修と授業外学修が自ずと連関するよう工夫しました。授業外学修課題については毎回提出を要求しましたが、1クラス120人ほどの授業であったため、毎回一人ずつ提出物に対してコメントすることはできませんでした。その代わり、全ての課題に対して、タイミングをみて解説を行うことで、自分の取り組み内容を振り返ることができるようにしました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

はじめてのオンライン授業ということで、学生が少しでも安心して学べるように、ということとを常に念頭におきながら授業準備を行いました。

た。オンライン環境の整い具合や慣れ具合アンケートで確認しながら授業を進め、学生の他の予定（実習準備など）も加味して、課題の量や授業内容、授業方法を調整しました（学生が実習準備などで多忙であることが想定される時には、資料を読んで学修する時間を減らし、動画視聴でできるだけ学べるよう教材を工夫するなど）。

個別指導コレクションでの質問も学生から多く受けましたが、これに対しては、語りかけのような文章で速やかに回答するようにしました。

●授業中に用いたツール

YouTube（PPT資料に音声をつけて作成した解説動画など）

manaba（コースニュース／コースコンテンツ／アンケート／レポート／個別指導コレクション）

●成績評価の方法

毎回提出物を要求しましたので、提出物全てを成績評価の対象としました。

●1回分の授業準備にかけた時間

5時間程度

●その他記載

学生が提出したレポートに関して、学生同士で閲覧しあいコメントしあう試みも取り入れましたが、特に大人数での授業の場合、グループワークに代わる意見交換の場をオンライン授業でどのように設けるかについて、より工夫が必要だと感じています。担当する授業の受講生数と照らし合わせて、後期授業ではさらに検討していきたいと思っています。



Writer

武田洋子准教授
Takeda Yoko家政学部
児童学科



児童教育学科 専門教育科目

教科の実践的指導（小） 3年 選択

理科教育法

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として200分程度。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- ・資料提示型・オンデマンド型のオンライン授業でも、できる限り対面に近い形態で双方向の授業ができることを重視して準備を行った。
- ・PowerPointのデータに音声を入れると容量が大きくなりmanabaに掲載できなかったり、学生がダウンロードできなかったりするので、スライドごとにメモを書き込み、詳しい解説を添えた。受講しやすいように1つのスライドに多くのメモを載せずに、スライドの数を多くした。
- ・各学年の問題解決の力を育成する場面での講義に合わせて、作成に関わった文部科学省の授業動画をYouTubeで配信した。
- ・授業外学修の予習・復習の課題はmanabaのレポート機能で毎回提出させた。そのレポートを供覧できるようにして、学生同士で見ることができるようにした。毎回92名全員に個別のコメントを書いて、必ずよい点を見つけて褒め、理解できていない点は、分かるように解説をした。
- ・毎回のレポートには、「質問や要望」が書け

る欄を設けた。その内容に対して、必ず回答をした。質問の多かった内容に対しては次の講義の冒頭で再度詳しく解説をした。最初のうちは質問が多岐にわたっていたが、授業を重ねるごとに少なくなり、本質に迫るレベルの高い質問になっていった。

- ・レポートや質問の内容を毎回全員分把握していたので、学生の理解度に応じた授業内容に変えていくことができた。後半はかなりレベルの高い内容の講義をすることができるようになった。学生の振り返りを見ると、受講するごとに自身の成長に気付くことができ、指導案づくりや理科の授業づくりに自信をもつことができたこと記載されるようになった。
- ・模擬授業の代替として全員に5分程度の授業動画を作成させる課題を与えた。PowerPointのスライドショーを動画にして音声を入れ、模擬授業風にしたデータを提出させた。動画作成ができない学生に対しては、個別支援を行ったので、全員作成することができた。そのデータをYouTubeにアップしてみんなで視聴し合い、manabaのコメントで感想を寄せ合った。授業協議会の代替として、私も含めた学生からのコメントにより、授業者の励みになったようである。

●授業中に用いたツール

授業動画、スライドと解説メモ、指導案

フォーマット、振り返りシートなど

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

manaba、Gmail、YouTube、PowerPoint

●成績評価の方法

毎回のレポートを評価し、最後の授業動画の内容も含めて総合評価をした。

●1回分の授業準備にかけた時間

- ・慣れないオンライン授業なので、1回分の授業準備は4時間程度。
- ・1回分のレポートに対してのコメント、評価は授業準備以上の時間を要した。

●その他記載

学生は1人で受講しているので、一斉講義型ではなく、個別指導型を意識して常に質問に答えられるようにしたり、習熟度に合わせた内容にしたりして、教員が身近に感じられるように努めて授業を創ることに心がけた。



Writer

関根正弘准教授
Masahiro Sekine家政学部
児童教育学科

教職に関する科目 3年 選択科目

道徳教育の研究

●授業タイプ

オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

動画は1時間を目安に作成したが、100分～150分程度学修を要する程度の内容とした。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- ・学生に対する指示（毎週何曜日の何時に教材等を公開するのか、フィードバックをいつまでに提出するのか、等）を丁寧に記載するようにした。
- ・教材の公開、提出物の締切等の毎週のルーティンを崩さずに実施するようにした。
- ・授業時間だけで十分に学修できる分（それよりも若干少なめ）だけの教材を提供するようにした。
- ・フィードバックの締切は、オンデマンドであることを考慮し、教材公開から4日後とした。
- ・フィードバックでの意見・質問等に対して、（授業の進行とは別に）毎週動画を作成し、応答するようにした。
- ・授業そのものの質を下げないために、グルー

プワークが実施できないことを除いて、面接授業で予定していた内容から変更を行わないようにした。

- ・スライド動画の作成については音声を明瞭に記録できることに腐心した。
- ・授業の最初に、遠隔授業を行うに当たって学生が疑問に感じると思われること（放送大学との異同、面接授業に替わりうるのか、等）について私なりの考えと立場を明らかにする数ページの文書を作成・配布し、少しでも疑問をもたずに取り組めるようにした。

●授業中に用いたツール

manaba、Google Drive、Explain Everythingのクラウド（Google Driveが利用できない場合のリスクヘッジ）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

- ・ハンド・アウト作成：upLaTeX
- ・スライド作成：Keynote
- ・スライド動画作成：iPad Pro、Explain Everything、USBオーディオインターフェー

ス（behringer XENYX 302USB）、ダイナミックマイク（shure BETA58A）、モニタヘッドフォン（audio-technica ATH-M40x）

- ・動画共有：Google Drive、Explain Everythingのクラウド

●成績評価の方法

- すべてmanabaを通じて回収
- ・毎回の授業のフィードバック
- ・指導案（課題）の内容
- ・テスト（レポート試験）

●1回分の授業準備にかけた時間

1.5～2.5時間程度



Writer

走井洋一教授
Yoichi Hashirii家政学部
児童教育学科

教養としての歴史

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

主に資料・課題提示はmanaba、リアルタイム配信はWebexです。教務委員のため春は急な対応が多く入り、授業準備時間が足らず、オンデマンド型（YouTube等）まで理解・準備が間に合いませんでした。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間は90～100分、授業外学修時間は150分程度を想定しました。manabaではほぼ毎時間、交互にミニレポートか小テストを課しましたので、その学修時間が必要であったと思います。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

授業プリントは、読めば一人でも学修・理解ができるように、1冊テキストを書き下ろすようなイメージで文章化し、約1週間前にmanabaのコースコンテンツに掲示しました。ミニレポートは、授業に関する課題や、授業の気づきや考えをふりかえる内容が中心です。小テストは、授業プリントの閲覧可で、授業開始10分後（出欠や諸確認後）に15分間で実施しました。ともにmanabaを活用しましたが、学生によって異なるオンライン環境を勘案し、ミニレポートの提出締切や小テストの制限時間を例年より長目に設定しました。

●授業中に用いたツール

manabaでは、respon（出席）、アンケート、レポート、小テスト、コースニュース、コースコンテンツを、Webexではチャットをよく使いました。授業では映像・写真等の史資料を多く活用し、理解を深める工夫をしていますが、それは普段の対面授業でも同じです。この授業は講義中心で実技系の授業ではないため、manabaとWebexを併用したリアルタイム型で、かなりの部分をカバーできました。質問対応等では、メールも多用しました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PC、デジタルカメラ、Word、Excel、PowerPoint、無料動画再生・編集ソフト。

●成績評価の方法

ほぼミニレポートと小テストで行い、全て点数化しました。ミニレポートの採点は大変ですが、小テストはmanabaの自動採点機能がとても助かりました。

●1回分の授業準備にかけた時間

当初は自身の授業プリントを全てパワポ化し、音声や画像を入れてYouTubeにアップしたいと思いましたが、自身の技術・時間の不足から、基本教材はこれまでの授業プリントのヴァージョンアップ（文章化等）で時間

短縮を図りました。ただPCが得意ではないためモタモタすることが多く、それでも4・5時間かかることが多かったと思います。

●その他記載

私が最も重視したのは、リアルタイムを生かしたライブ感と、チャットや会話による直接的・双方向的なやりとりです。共通教育科目で受講生は1年生が多く、孤独感の中で学修する学生達の心情を察し、授業内での問いかけ・投げかけ・声かけを大切にしました。「毎週楽しみ」「大学で授業を受けているような感じ」等の反応が、度々チャットに見えました。

ただ後期、共通教育科目は原則リアルタイム型が「不可」となりました。どうすべきか、大変苦慮しております。



Writer

中尾浩康講師
Hiroyasu Nakao
家政学部
児童教育学科

情報活用

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

座学（情報モラル・情報セキュリティ）…資料・課題提示（計2回）

学内情報システム、eラーニング等の使用方法…リアルタイム配信（計1回）

Word・Excel・PowerPointの演習…オンデマンド配信（計9回）

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間は90分程度、授業外学修時間はその回の課題に関連した内容のほか、タイピング練習、eラーニングの学習時間も含めて120分程度を想定しました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- ・この科目は新入生対象の演習が主の科目であり、毎年PCやアプリの操作に苦手意識を持つ学生が多いので、質問を随時manaba（個別指導コレクション）で受け付けることを強調しました。
- ・複数の授業タイプで実施しましたが、授業内容・進め方の指示方法（各回の課題や手順を

PDFにまとめてコースニュースに掲示）は毎回変えずに行うようにしました。また、授業タイプが変わる際には、コースニュースや授業動画の中など、複数の媒体を介して繰り返し伝えるようにしました。

・毎年クラス内で学生のPCスキルに差がみられるため、対面の授業内ではそれを調整しながら進めていたのですが、オンライン授業でもできる限り習熟度を配慮するようにしました。具体的には、演習の回で毎回提供した授業動画（テキストに沿ってアプリの操作方法を解説しながら課題を実演する等）の視聴は基本的に必須にはせず「必要な人だけ見てください」というスタンスにする（連絡事項や前回課題のフィードバックを含む際のみ必須）、授業外学修用にプラスαの練習課題を提供する、タイピングが苦手な人には個別対応する、などです。

●授業中に用いたツール

授業動画、PowerPoint資料（授業内容の解説）、manaba（小テスト、アンケート、レポート、個別指導コレクション）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ノートPC、ヘッドセット、Webex、Google Drive、PowerPoint、Excel、Word、manaba

●成績評価の方法

各項目（Word・Excel・PowerPoint）スキル課題、課題提出物・授業への取り組み態度

●1回分の授業準備にかけた時間

授業内容によって異なりますが、4～6時間程度だったと思います。（授業準備よりも、個別指導コレクションへの質問の対応に時間を要した印象です。）



Writer

天野美穂子特任講師
Mihoko Amano
家政学部
児童教育学科



栄養学科 管理栄養士専攻 専門教育科目 専門基礎分野 食べ物と健康 3年 必修科目

食品化学実験I

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

「オンデマンド配信と資料・課題提示の組み合わせ」で授業を行いました。

「資料・課題提示」はPowerPointによるスライド資料提示、「オンデマンド配信」についてはPowerPoint（スライドショー機能に音声と画面切り替え）をMP4ファイルにしてからYouTubeにアップロードしました。また、実験動画を撮影、編集し、YouTubeにアップロードしました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として200分。授業外学修として100分程度。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

できるだけ対面授業に近い形式で再現できるように心がけました。

1回の授業の流れを伝え、「この授業をとおして何を学ぶのか」を意識しながら受講してもらいました。実験動画の映像から結果を読み取り、最終的な結果を導いていけるように設定し、実験動画を眺めるのではなく、理解を深めてもらえるように作成しました。毎回アンケートを実施し、学生の意見を取り入れながら授業

準備をしました。

●授業中に用いたツール

manaba（コースコンテンツ、小テスト、レポート、アンケート、個別コレクション）
YouTube（教材、実験動画、質問が多かったことへの回答他）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：PC、iPad
ソフトウェア：PowerPoint、YouTube、manaba、動画編集ソフト（フォト）

●成績評価の方法

平常点（資料・教材へのアクセス状況）、小テスト、レポート課題の状況

オンライン試験（manabaの小テスト機能を用いた試験）

以上の結果により評価しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

15～20時間程度
（MP4ファイルへの変換、YouTubeへのアップロードは時間がかかりました）

●その他記載

清水助手には、コンテンツの確認、実験動画撮影の補助および編集などについて担当してい

ただき、限られた時間内にて準備を整えることができました。

●学生の意見

- ・実験の授業なので実際に手を動かして行うことができなかったのが残念。
- ・実験科目のオンライン授業ということもあり不安が大きかったが「講義動画・実験動画・PowerPoint・小テスト・レポート」という一連の流れがハッキリと繰り返されていて、自分が今どこまで進みどこまで理解できたのかが把握できた。
- ・動画は止めたり繰り返したり、後で見直したりできるので、リアル実験よりじっくり向き合えて良かったと思う。



栄養学科 栄養学専攻 専門教育科目 人体の構造と機能 1年 必修科目

解剖生理学I

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

「オンデマンド配信と資料・課題提示の組み合わせ」で授業を行いました。「資料・課題提示」はPowerPointによるスライド資料提示+Wordファイルによる課題とその解説を基本としました。「オンデマンド配信」について、はじめの3回は学生の方々のオンライン環境が整っていないことから音声ファイル（MP3とAACファイル形式）で、4回目以降は市販の家庭用ビデオカメラレコーダーを用いて授業を録画してYouTubeにアップロードする形でオンデマンド配信を行いました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として150分程度。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

・できるだけ対面授業を再現できるように授業を行いました。一方で、100分の授業をそのままビデオ撮影するのではなく、原則として小単位ごとにビデオを切り替えました。また、黒板とスライドを利用して授業を行いましたが、黒板に図をあらかじめ書いておくことで、内容は変えずにビデオの時間をできる

だけ短くするように努めました。このため、1回の授業あたり5分から25分程度のビデオを数本見ていただくことにしました。

- ・質問がしにくい場合を考え、毎回の課題に解答と簡単な解説を添えました。
- ・課題など提出物の連絡や提出方法、試験の形式などできるだけはやく連絡するようにしました。

●授業中に用いたツール

黒板とPowerPointによるスライド

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

家庭用ビデオカメラレコーダー

●成績評価の方法

平常点（各単元の課題提出状況と解答内容）、オンライン試験（manabaを用いた試験）

●1回分の授業準備にかけた時間

およそ4～5時間

●その他記載

解剖生理学Iは座学でもあり、実習や実験系などの授業に比べて、対面授業を比較的再現しやすい授業であると思います。学生アンケートの結果でも、「1回では理解できない箇所を繰

り返し学ぶことができた」「自分の好きなときに学ぶことができた」など、オンライン授業に肯定的な感想も複数みられました。一方で、今後の課題として、「友人同士でテスト勉強をしながら教えあったりできないので試験などが不安」などの感想もみられました。



臨床病態生理学

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

- ・資料・課題提示：オンデマンド配信のスライドの資料・マナバの小テスト（ドリル）
- ・オンデマンド配信：YouTubeで動画を限定配信
- ・リアルタイム配信：学生に、動画の学習内容に関する質問をマナバの掲示板に投稿させ（1授業約20名）、次回、解説を行いました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学習として200分（この授業外学習が必要という点が、3年生でも理解できていなかったようであったのが残念です。）

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

耳にするのも初めて、といった内容を学んでいくことになる講義なので、対面以上にわかりやすさを重視しました。独学では学びにくい分野なので、授業外学習でも授業時間に視聴できなかった動画を視聴したり、繰り返し視聴をしてもらえるよう配慮したつもりです。

●授業中に用いたツール

出席確認にresponとWebex。

リアルタイムでの質問はマナバ掲示板、回答はWebex。

オンデマンド配信はYouTube。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PowerPointのスライドショー機能で音声と画面の切り替えを記録。

MPEG4ファイルにして、YouTubeにアップロード。

動画のリンクを学生にマナバで周知。

…CREDの矢野さんに教えて頂いた方法です。

これを教えて頂いたお陰で、授業の組み立てがしっかりしました。

録画は途中で中断のないよう、自宅で行いましたが、生活音が時々入っていたのを後から学生から指摘されました（笑）。

●成績評価の方法

〇×式（誤文を訂正）のペーパーテストで何を調べて回答しても良しとしました。出題・回収はマナバのレポート機能です。

●1回分の授業準備にかけた時間

録画自体はそれなりの時間で済みましたが、動画を保存し、YouTubeにアップするには、

30分の動画でそれぞれ小1時間ほどかかりました。（私のPCの問題かもしれませんが…）それを1授業につき3本ほど作りましたので…。

●その他記載

学生からは、「繰り返し視聴出来て理解が深まった。」「質問に答えて貰えてよかった。」（毎回20名ずつは順番で必ず質問する事、順番でなくても質問がある人は自由に掲示板に書き込みをしてもらいました）との意見をもらいました。

一方、動画の長さが授業時間を超えていたとの声もありましたので、授業外学習の事も後期はお話しておこうと思っています。

また、2倍速で見てもらうのも構わないという考えでしたが、あえてその点は学生には伝えませんでした。



Writer

澤田めぐみ教授
Megumi Sawada家政学部
栄養学科

食品機器分析化学実験・（オムニバス科目）重村担当回

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として150分。授業外学修として90分。

授業：ライブ配信で150分授業

授業外学修：ライブ授業後課題60分、動画視聴30分

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

この科目は実験なので、実際対面で実施する内容を動画閲覧から理解すること、さらに原理や実験結果の算出をライブ授業とダイジェスト動画からしっかり理解させることを重視した。特に、実験の動画撮影は学生目線になるよう実施。また実験動画は編集時に字幕や拡大などの機能を入れることで分かりやすい動画になるよう心掛けた。さらに実際には自分で求めているが、学生にはこちらで作成した個人個人異なる実験測定値をポータルから送信し、その結果を使用して実験結果を算出させた。

●授業中に用いたツール

Webex（チャット機能）：ライブ配信授業

manaba：授業外での小テスト、資料、質

問（個別指導）

YouTube：授業内容のダイジェスト動画。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

Cyberlink社 Power Director：スライドを解説する1つ5分間のダイジェスト動画を作製

YouTube：ダイジェスト動画を公開。

manaba：小テスト・資料作成、アップロード。

小型動画撮影用カメラ・スマホカメラ・三脚等：実験動画撮影用

●成績評価の方法

manabaを介したへのレポート提出

●1回分の授業準備にかけた時間

10時間

●その他記載

実験は、対面でも【説明・実験作業・結果（計算）・考察】という流れが授業では行われる。これをオンライン授業で実施する上での工夫が必要であった。説明はライブ配信方式でPowerPointスライドを使用、実験作業は1つ5分程度のYouTube動画を複数視聴してもらい、結果の求め方についてはライブ

授業とYouTube動画で解説した。考察は各自manabaに記載。上述の食品学各論同様、説明はライブ感をだせるライブ配信授業で実施し、Webexチャット機能を活用することで対面以上の授業参加を誘導した。YouTube動画などのライブ感強いコンテンツに対する学生の集中力は10分持たない為、実験動画は、シーンを変え、ルーティン作業は倍速再生などによって1つ5分程度にまとめた。実験の原理など複雑な計算は対面よりも学生が集中して理解しようと取り組んでいたと感じた。

また、実験科目をライブ授業で行う上で、新任の新井助教に実験動画撮影などの積極的にサポートがあり、実施当日までに間に合うことができました。



Writer

重村泰毅准教授
Yasutaka Shigemura

栄養科



環境教育学科 専門応用科目 3年 必修科目

環境分析実験Ⅱ

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

本授業は、A) 実験の原理の説明については板書による説明を動画視聴、B) 実験方法の説明については作業風景の動画視聴、C) 実験データはテキストの中で提示、D) データ解析のやり方についてはExcel上での説明操作の動画視聴、で構成しました。A) からD) への作業の流れを指示するテキストを作成し、学生には最初にそれを読んでもらい、必要に応じて動画や資料を見て進めてもらいました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間としては、テキストの読み込みで30分程度、動画視聴で60分程度を想定しています。授業外時間としては、データ解析に30分程度、レポート作成に60分程度を想定しています。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

当初はテキストのみによる説明で進めることを考えましたが、実験授業の内容を文字だけで

十分に理解してもらうには困難であったため、なるべく多くの作業を動画にすることにしました。学生には長い動画で集中が切れなくなるように、項目毎に動画ファイルを分けること、動画内でも間延びするような箇所があったら動画編集により早送りするというようなことを行いました。

●授業中に用いたツール

manaba: テキスト資料の掲示、レポートの提出

Google Drive: 動画の掲示

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

Debut 動画キャプチャソフト: 動画の録画

ApowerEdit: 映像や音声の修正と編集

●成績評価の方法

レポート提出による出欠確認とレポート内容

●1回分の授業準備にかけた時間

実験の前準備およびテキスト資料の作成に1日、ビデオ撮影に1日

●その他記載

今までにも自作の動画を活用した学習プログラムの組み立てについては、やってみたいとの思いはあったものの、動画撮影や編集作業のようなIT技術を習得する煩わしさがハードルになり、なかなか踏み込めずにいました。今回、否が応にもやらなければならなくなり、その甲斐あってhow-toが分かるようになりました。今後、通常授業に戻っても、このようなオンライン授業資料を予習資料として活用していきたいと思います。



Writer

井上宮雄准教授
Miyao Inoue家政学部
環境教育学科

環境教育学科 専門教育科目 専門基礎科目 1年 必修科目

生物学A

●授業タイプ

リアルタイム配信

リアルタイム配信を基本とし、指定教科書を用いた授業です。出席はresponで行い、試験はmanabaを用いた50問の5者択一です。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として100分:教科書は穴埋め式ドリルがあるもので、それを予習してきて、私の講義を聞くという形式です。リアルタイムに解説をし、ホワイトボードで説明の追加を行う形式です。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

授業の初めに、オンデマンドでの学習に疲弊しているという意見が多く、リアルタイムでの講義形式を選択しました。授業準備は教科書に記載されていない、最新の話を盛り込むことで、興味を持つように組み立てました。

●授業中に用いたツール

PowerPoint、動画を見せながら、教科書の説明補足を行いました。あとはホワイトボードに書き出し、それを映しながら行いました(アナログなのですが)。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ノートPC、PowerPoint、YouTube動画。

●1回分の授業準備にかけた時間

回にもよりますが100分程度。基本は座学でこれまでにやってきた内容と変わらず、配信がリアルタイムという形式です。学生の反応が見えませんが、チャットでわからないこと、質問は逐一見ているので、後半は学生たちも積極的に質問してくれたと思います。

●その他記載

リアルタイムに限らずオンラインでは、真の

出席状況が見えないので、学生には勉学の自主性と責任は自らにあることを何度も言い聞かせました。

そうすることで、自主性を信じて授業をすすめました。大方、まじめに取り組んでくれたと思っています。



Writer

藤森文啓教授
Fumihiko Fujimori家政学部
環境教育学科



服飾美術学科 専門教育科目 素材・加工・整理 1年 選択科目

被服繊維学

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

3つを組み合わせることで、ドロップアウトする学生もなく、比較的充実した授業を行うことができたと思う。残念な点はブレイクアウトセッションまで手が回らず、学生同士のコミュニケーションやインタラクティブに学生とのやり取りが出来なかったこと。オンライン授業をうまく活用すれば、対面授業よりも、学生からもっと発言を引き出し学習意欲が高めることができるという手応えはあった。今後、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業で教育の質を高めていくべきと思う。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として90分。

授業外学修90分（予習にあてる）：事前に授業動画（YouTube）とスライドのPDF（manabaコンテンツ）を公開。予習してから授業に臨む。質問はmanabaの個別コレクションで受ける。

授業時間100分（復習と小テスト）：リアルタイム30分（事前質問への回答等）、オフライン40分（復習と小テストに回答）、リアルタイム30分（追加説明、解説等）

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

学生にとっても初めてのオンライン授業なので、負担がかからず興味を持って授業に取組んでもらえることを心がけた。授業に使う動画は1本15分間程度にして、1回の授業に対し2本

準備した。スライドも閲覧用と印刷用を2種類公開し、印刷用ではスライドを小さくし学生自身が要点を書き込めるように余白を設けた。事前に受けた質問とそれに対する回答はリアルタイムでシェアすることで一体感をもたせようと試みた。事前の授業外学修を予習に、授業時間を復習として明確に位置づけることでオンライン学習方法への取組み方のガイドラインを示した。運動不足解消のため、リアルタイムにラジオ体操を毎回行った。

●授業中に用いたツール

オンデマンド配信型の授業動画はYouTubeにアップし、使ったPowerPointのスライドは、manabaコンテンツにアップしていつでも閲覧可能にした。リアルタイム配信型はWebexで実施。リアルタイム中にYouTubeの教育ビデオなども紹介。manabaから、簡単な小テストを毎回行い、都度授業内容の理解の定着に努めた。Responで出席確認。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：自宅或いは研究室のデスクトップPC、デジタルカメラ、ボイスレコーダー

ソフトウェア：PowerPoint、Excel、Word、Filmora（Windows用動画編集ソフト）

●成績評価の方法

毎回の小テスト、中間テスト、期末テストの点数の合計で評価した。オンラインで教科書・資料閲覧可の状態での試験だが、あえて難しい質問ではなく、繰り返し説明した確実に覚えて

ほしい部分を出題したので全体的に成績評価は高くなった。

●1回分の授業準備にかけた時間

授業動画の作成：昨年使ったPowerPointのプレゼン資料を動画用に編集し、話す内容をボイスレコーダーに吹き込んで、動画編集ソフトで編集。1回の授業用に15分動画2本をつくるのに10時間程度。

毎回のリアルタイムの準備：2時間程度

●その他記載

初めてのオンライン授業の経験だが、新しい教育手法が一気に進展したことは結果的には良かったと思う。ようやくIT技術に我々の意識が追いついた。企業に勤めていた時から仕事の効率化などの業務改革に取組んでおり、在宅勤務の経験から、時間はかかったが、自宅での作業やコンテンツ作りにはあまり苦労しなかった。しかし、限られた時間と制約の中で、如何に学生に興味を持ってオンライン授業に取組んでもらうかについては頭を悩ませた。



Writer

大井龍教授
Oi Ryu

家政学部
服飾美術学科





全学共通教育科目 人間力育成科目 (B群) 4年 選択科目

ファッションアクセサリ 論

●授業タイプ

資料・課題提示

通常の講義PPTの1枚ずつに実際に話す内容をつけてPPT1枚おきに挿入していった。追加した私のセリフ部分はわかりやすいよう黒の背景に白文字にして、スマートホンのみで受講する学生でも読める文字の大きさにした。また、講義で学生に話すのと同じ口調で文章を書くよう心掛けた。

ファッションアクセサリ論はテキストがないので、上記の講義PPTとPPTで使用した資料写真を並べた図集プリントをコンテンツにて配布した。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として200分。

学生は配布物をもとに全ての時間をノート作りに充てた。

●授業中に用いたツール

respon→出席確認、
コースニュース、コンテンツ→資料の閲覧確認、授業参加状況の確認、全体への伝達事項
コンテンツ→授業PPT、プリント配布
レポート→ノート写真提出
個別指導コレクション→質問などのやりとり

●成績評価の方法

ノート提出。古代、中世・近世、近代の3回

に分け、一定期間を設けて提出。

ファッションアクセサリ論では、通常の展覧会見学課題に代えて、博物館などの指定したURLからコレクションを選び、レポートにするという課題を設けた。その際は授業で学んだ視点を通して考察するということを課した。

ノート作りの条件は、最低限PPTの板書部分の文字をノートに書くというもので、丁寧なノート作りに加点をする方式とした。学生は大変熱心にノート作りに励み、結果的に積極的な自主学習を促すこととなった。成績は相対的に高くなり、例年に比べて脱落者が少なかった。

学生のノートは全てダウンロードして目を通して、誤字があれば個別指導コレクションを通して指導を行った。

●1回分の授業準備にかけた時間

授業の前日か前々日にアップロードを済ませると、そのまま次週の講義内容を文字化する作業に入った。文字にしてしまうと一言一句の確認まで必要となるため、かかった時間は計り知れない。朝7時頃から始めて、連日深夜まで書き続けた。充実した内容の授業を届けることは出来たと感じたが、後期は講義が4種類あるため、この方法ではできないと感じた。

●その他記載

わかりやすかった、充実していた、学が楽しさを知った、という嬉しい反応が多くあった

一方で、一部の学生からは授業の量が多すぎてノート作りに時間がかかりすぎる、などの不満が寄せられた。また、プリントアウトしてインクを消費するから資料を郵送してほしいなどのコメントもあった。歴史文化史系の授業はたくさんの資料や内容に触れなければ到底理解することはできない。講義内容をオンラインに合わせて毎回少しずつ変更していくため、前もって印刷郵送も難しい。より簡便に学びたいという学生の要望と、分野の特性との間にどうしても埋められないギャップがあるという点については、対面でもオンラインでも変わらない部分と感じている。



Writer

沢尾絵准教授
Kai Sawao

家政学部
服飾美術学科



服飾美術学科 専門教育科目 素材・加工・整理 2年 必修科目

被服材料学

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

オンデマンドの動画を視聴し、教科書を読んだうえで、manaba小テストに解答することで、毎回の授業での理解の定着を図った。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として100分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

オンデマンド配信の動画を、学生が疲れずに飽きずに見てくれるように、15分程度の短い動画数本に分けて掲載した。動画の内容は、学生が見てわかりやすいことを心掛けた。動画は、PowerPointに音声を吹き込むのみでなく、電子黒板のようにPC上のホワイトボードに書き込みながらの解説も動画に含めた。

授業開始時に、リアルタイム配信とオンデマンド配信の希望をアンケート調査したところ、オンデマンド配信希望者が70%と多かったため、オンデマンド配信とした。

●授業中に用いたツール

manaba上に、YouTubeにアップして動画を掲載し、学生の接続環境を考慮して、資料(PowerPointのスライドPDF)と音声のみのファイルも掲載した。資料には、教科書の関連ページのページ番号を記載し、動画視聴のみで理解しにくかった箇所は、教科書も読むように指導した。

毎回の授業において、動画視聴後に簡単な小テストを実施し、学習内容の定着を図った。質問にはmanabaの個別コレクションで対応した。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア:PC、iPad、iPhone、ヘッドセット

ソフトウェア:manaba、Zoom、PowerPoint、YouTube

動画はZoomを用いて作成した。PowerPoint、ホワイトボード、ワイプ動画を組み合わせて作成した。

●成績評価の方法

中間テストと期末テストをmanaba小テストで時間を決めて実施し、それらの成績と、毎回の小テストの提出状況、講義資料の閲覧状況から評価した。

●1回分の授業準備にかけた時間

3～6時間



Writer

濱田仁美准教授
Hitomi Hamada

家政学部
服飾美術学科

ONLINE
LESSON
16

服飾美術学科 専門教育科目 服飾文化 2年 必修科目

西洋服飾文化史

●授業タイプ

資料・課題提示

通常の講義PPTの1枚ずつに実際に話す内容をつけてPPT1枚おきに挿入していった。追加した私のセリフ部分はわかりやすいよう黒の背景に白文字にして、スマートホンのみで受講する学生でも読める文字の大きさにした。また、講義で学生に話すのと同じ口調で文章を書くよう心掛けた。

授業PPT以外の配布物は、授業PPTに載せた画像集と服飾の変化が分かるイラスト集をPDF化したもの。これらとテキストを教材とした。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として200分。

学生は配布物をもとに全ての時間をノート作りに充てた。

●授業中に用いたツール

respon→出席確認、
コースニュース、コンテンツ→資料の閲覧確認、授業参加状況の確認、全体への伝達事項
コンテンツ→授業PPT、プリント配布
レポート→ノート写真提出
個別指導コレクション→質問などのやりとり

●成績評価の方法

ノート提出。古代・中世・近世・近代の4回

に分けて一定期間を設けて提出。各提出回には追加課題を設け、学んだ内容を振り返ることのできる問いを出し、ノートの続きに論述してこれも撮影して提出とした。

ノート作りの条件は、最低限PPTの板書部分の文字をノートに書くというもので、丁寧なノート作りに加点をする方式とした。学生は大変熱心にノート作りに励み、結果的に積極的な自主学習を促すこととなった。成績は相対的に高くなった。

学生のノートは全てダウンロードして目を通し、誤字があれば個別指導コレクションを通して指導を行った。

●1回分の授業準備にかけた時間

授業の前日か前々日にアップロードを済ませると、そのまま次週の講義内容を文字化する作業に入った。文字にしてしまうと一言一句の確認まで必要となるため、かかった時間は計り知れない。朝7時頃から始めて、連日深夜まで書き続けた。充実した内容の授業を届けることは出来たと感じたが、後期は講義が4種類あるため、この方法ではできないと感じた。

●その他記載

わかりやすかった、充実していた、学ぶ楽しさを知った、という嬉しい反応が多くあった一方で、一部の学生からは授業の量が多すぎてノート作りに時間がかかりすぎる、などの不

満が寄せられた。また、プリントアウトしてリンクを消費するから資料を郵送してほしいなどのコメントもあった。歴史文化史系の授業はたくさんの資料や内容に触れなければ到底理解することはできない。講義内容をオンラインに合わせて毎回少しずつ変更していくため、前もって印刷郵送も難しい。より簡便に学びたいという学生の要望と、分野の特性との間にどうしても埋められないギャップがあることに关しては、対面からオンラインになって変わらないと感じた。



Writer

沢尾絵准教授
Kai Sawao家政学部
服飾美術学科ONLINE
LESSON
17

服飾美術学科 専門教育科目 素材・加工・整理 3年 選択科目

被服材料学実験Ⅱ

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

オンデマンドの動画を視聴し、実験結果を算出してmanaba小テストに解答し、レポートを提出する形式で行った。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として150分。授業外学修として100～150分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

オンデマンド配信の動画を、学生が疲れずに飽きずに見てくれるように、15～20分程度の短い動画数本に分けて掲載した。動画の内容は、学生が見てわかりやすいことを心掛けた。

動画は、「実験方法の解説」、「実験」、「結果の解説」に分けて掲載した。学生は実験を実際には行えないが、測定値から計算式を用いて結果の算出を行うことで、実験データの解析を学生が実際に行えるようにした。

●授業中に用いたツール

manabaに「実験方法の解説」、「実験」、「結果の解説」の動画をYouTubeに上げて掲

載した。「実験方法の解説」と「結果の解説」は、教室でホワイトボードを使った説明を撮影して作成した。「実験」については、実際に実験を行って撮影し、動画編集ソフトでテロップや図を挿入して、動画を作成した。

実験の測定値を掲載し、小テストで、測定値から計算式を用いて結果の算出を行ってもらった。計算が間違っている学生には個別コレクションで計算方法の指導をしてから、レポートを作成・提出してもらった。質問にはmanabaの個別コレクションで対応した。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：PC、iPad、iPhone、マイク
ソフトウェア：manaba、PowerPoint、Excel、YouTube、Filmora（動画編集ソフト）

実験の動画は、実際に実験を行って撮影して、動画編集ソフトでテロップや図を挿入して編集した。動画はYouTubeにあげてmanabaに掲載した。

●成績評価の方法

毎回の小テストとレポートの提出状況、講義資料の閲覧状況、毎回のレポートの内容から評価した。

●1回分の授業準備にかけた時間

6～10時間

●その他記載

実験動画の作成、及び、小テストの実験結果算出の個別指導については、白井菜月期限付助教の積極的なサポートがあり、オンライン授業を円滑に進める事ができました。



Writer

濱田仁美准教授
Hitomi Hamada家政学部
服飾美術学科



服飾美術学科 専門教育科目 服飾工藝 3年 選択科目

ニットI

●授業タイプ

- 資料・課題提示／オンデマンド配信
- 資料・課題提示：1回
- オンデマンド配信：11回

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として120～200分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

布帛とは異なるニットの構造を理解しながら技術を学ぶ実習科目ですので、初心者から始めることを念頭に、“これくらいは理解しているだろう”という考えは捨て去りました。また経験が既にある学生にとっても確認、復習となるように、これまでの対面授業での経験を基に質問が多く出る場面を思い出しながら、丁寧に伝える努力をして文字資料や動画作成をしたつもりです。動画作成に慣れておらず、初めは失敗がありましたが、新しい機材などは特に購入せずに手持ちのデジタルカメラと読書灯を用いて、出来る範囲でやろうと気を取り直し、なるべく手元を大きく映し、焦点がブレないよう気を付けて進めました。素人の動画を公開することに抵抗を感じていましたので、当初は公開設定を2週間程度もあればと考えていましたが、その場で見てあげられないなど対面授業の

ような指導が出来ないもどかしさが募り始め、14回分の全てのコンテンツを提出日まで公開することに変更し、またもやここでも気を取り直しました。学生からは何度も自分のペースで繰り返し動画を再生できたことで完成までたどり着けたというような感想が届き、考えを転換して良かったと思っています。

オンライン授業では学生も授業担当者も不安に陥りストレスを抱えがちだと思いますが、“自分がこの授業を受けたらどう感じるか”という受講者側の視点に立ち、まずは“学生ファースト”ということを心に留めながら前期期間を過ごしました。

●授業中に用いたツール

- 授業内容プリント（その回の実習の目的や手順を記載した文字と写真の資料）
- 動画（YouTube、Google Driveにup）5～15分程度のもの37本
- manaba、mail

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ノートPC、小さな携帯用デジタルカメラ、Word、Excel、Windows photo（簡易動画編集）

●成績評価の方法

作品の写真提出+実物提出+掲示板への意見の投稿（70%）、出席確認を含む毎回の小テスト（10%）、事前・事後学修のレポート提出（20%）の総合評価

●1回分の授業準備にかけた時間

その回の動画数や授業内容にもよりますが、実際に課題作品を編み進める分も含め、5～6時間程度は費やしたと思います。

●その他記載

manabaを本格的に使用したのは今年度からです。練習コースで学生役を担ってもらった山元理奈期限付助手のお陰で、機能の試行、理解と解決を得ることにつながり、またコンテンツチェックでは動画の不具合、公開日時の設定ミスを防ぐことができました。とても感謝しています。



Writer

大塚有里准教授
Yuri Otsuka家政学部
服飾美術学科

造形表現学科 専門教育科目 専門基礎科目 2年 必修科目

美術と環境

●授業タイプ

- 資料・課題提示／オンデマンド配信
- オンデマンド配信（YouTube動画）とmanaba上での課題提示

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間は講義動画～30分、その他の時間を合わせて60分～90分。授業外学修として事前課題（動画視聴、事前リーディング）60分、事後課題（ディスカッションとリアクションペーパー）60分程度を想定。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

①ストラクチャーを作る：1週間の流れを設定し、全回を通じて変えないことで、学生の学修リズムをつくることを考えた。実施して見た流れは以下の通り。

- 事前課題提示（1週間前）→ 事前課題を読む・視聴する（当日まで）→ 講義動画を受講する（当日）→ manaba掲載の資料で理解を深める → リアクションペーパーを提出（2日後まで）→ manaba 掲示板でのディスカッションに参加（3日後まで）
- ②ソースリストの整備と提示：講義で紹介・解説した作家・作品名のリスト、外部サイト・

動画等のリンクを掲載して、講義内容に関心を抱いた学生が直接アクセスして学修を深められるようにする。

③（できる限り）翻訳をつける：海外の動画紹介が多く、日本語字幕のない動画等を使用する際、対面授業では口頭で説明していたが、オンラインでは時間が許す限り翻訳を作成してmanabaに掲載。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

紙芝居感を回避するため、講師が話している姿がPowerPointと同時に録画できるPrezi Videoというアプリを使い、冒頭のみ講師が登場するなど動きを付けてみた。動画編集はAdobe Premier Rush。

●成績評価の方法

manaba上で採点とフィードバックを行った。オンライン版シラバスに配点計算表を掲載し、学生が自分でも採点できるようにした。

- リアクションペーパー…25%
- ディスカッション…15%
- レポートx2…40%
- 課題（プロジェクト提案）…20%

●1回分の授業準備にかけた時間

講義動画収録と編集に最初は2～3日がかかり。慣れてくると3～4時間になり、学生からも『先生の動画が上手になってきた』という声があがるように（笑）。さらに毎回の作品のソースリストの整備や翻訳文作成にも意外と時間がかかってしまった。

●その他記載

自分が様々なオンライン授業を受講してきた経験を踏まえ、オンラインのbeneficialな点は①ストラクチャー②講義のソース、スクリプトが掲示されていること、と考えました。学生がダウンロードしておいて後々活用してくれるようなオンライン授業の内容と資料を作成したいと思っています。



Writer

曾根博美准教授
Hiromi Sone家政学部
造形表現学科

ONLINE
LESSON
20

造形表現学科 専門教育科目 工芸関連科目 3年 選択科目

織物I

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

大きくは反転授業のイメージで授業を組み立てた。

- ・資料・課題提示とともにリアルタイム授業内で概要説明。
- ・必要と思われる技法動画をあらかじめ、または学生からの要望に合わせて配信
- ・課題のフィードバックと質疑応答を毎回授業内でリアルタイム実施

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として100分。

- ※2時間続きの授業なので合計200分づつ
- ・基本的に授業時間外で制作することを想定。授業時間内は時間を区切り、学生一人と直接話す時間は3～5分程度。(40人以上のクラスなのでこれ以上は取れない) 待機時間は制作や休憩など各自に任せた。
- ・授業中はあらかじめ提出された課題を画面共有しながらフィードバックすることで、学生

同士が進捗の確認をできるようにした。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- ・オンライン・自宅という環境で、まずできることとできないことを整理し、欲張らない。
- ・繰り返し確認できる動画・資料提示で授業時間外の学修をしやすいようにした。
- ・manabaレポート欄を相互閲覧にし、学生同士が作品を見られるようにした。

●授業中に用いたツール

Webex、manaba、YouTube

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

- ・スマートフォン (動画撮影)

●成績評価の方法

- ・課題への取り組み方 (提出状況、内容等)
- ・出席状況

●1回分の授業準備にかけた時間

2～3時間、学生からの質問などの状況によって+@

●その他記載

- ・何よりもまず学生の頑張りに感謝したい。非常に難しい状況のなか意欲的に取り組んでも

らえたことは授業を準備する上で毎回励みになるものだった。

- ・授業の成果物は想定していたよりクオリティの高いものが得られたと感じる。
- ・2クラス開講の授業であり、同内容で進めた前田千絵子非常勤講師と毎週打ち合わせ・状況把握に努めたことが大きいと感じる。また渡部友樹子期限付助手をはじめ、教学助手の皆さんも本当によくサポートしてくれた。
- ・通年の科目であり、後期を対面で行う前提で今年度は授業スケジュールを変更した。後期の終わりにあらためて全体を通して振り返りたい。



Writer

大木敦子講師
Atsuko Oki
家政学部
造形表現学科ONLINE
LESSON
21

造形表現学科 専門教育科目 グラフィックデザイン関連科目 3年 選択科目

グラフィックデザインI

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として2コマ200分。授業外学修として100分。

授業時間の内訳

1回目：はじめにWebexでリアルタイムオンラインで課題説明15分程度
 アプリソフトの操作説明：30分程度
 休憩10分
 質問タイム30分程度 残りは各自制作時間
 授業外学修：各自アプリソフトの自主トレーニングとデザイン制作

2回目以降：アプリソフトの操作説明の積み上げと課題作品の制作途中をGoogle DriveにUPしてもらいコメントと評価をWebexでリアルタイムで行いデザインの改善につなげる。
 提出はGoogle Drive、講評会はWebexで全員で作品を鑑賞し、講評は全員プレゼンを行う。コメントは個々に行う。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

その1【授業内容について】

- ①事前課題提示 (1週間前)
- ②課題に対して当日まで資料収集をおこなう。
- ③当日はリアルタイムオンラインにて受講でき

るように、Google Driveの各種資料で理解を深めデザイン案の作成 (三週間後)。その間Google Driveで他の学生の制作途中のファイルを鑑賞し参考にするのが可能とする。課題提出は提出後、修正があれば遅れ提出を可とする。リアルタイムオンラインは実習室での雰囲気が出るように喋りを工夫する。

その2【各種ファイルの準備】

従来は学内ローカル専用ファイル共有サーバーに例示作品、過去の参考作品、参考資料、課題提出とともに学外からアクセスできないため、Google Driveに同様のフォルダを作成してデータを移動し共有して使用できるように準備した。

その3【使用アプリについて】

オンラインの授業では実習室にあるApple iMacとAdobeのアプリが使用できないため、自宅で作成できるよう、機能は劣るがフリーソフトで似たような代替アプリを検索しMac、Windowsマシンでの動作確認、操作性、互換性を評価して推奨アプリを数種類決めmanabaで告知して、学生は事前にインストールした。

●授業中に用いたツール

manaba、Webex、Google Drive、

YouTube

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

機器:iMac、iPad、iPhone

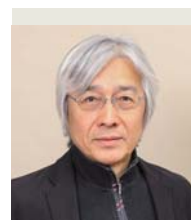
ソフト: Adobe CC、Adobe CS6、Gravit Designer、Inkscape、Affinity Designer、GIMP-2.10、EasyDraw等のデザインアプリ

●成績評価の方法

課題作品80%、ディスカッション (Webex、manaba個別コレクション)

●1回分の授業準備にかけた時間

200分～400分程度。主にデザインアプリの操作説明テキストをオンデマンド用に作成。前回の授業終了後、manaba個別コレクションでの質問に対するコメント記述60分程度



Writer

有馬十三郎教授
Tomio Arima
家政学部
造形表現学科



英語コミュニケーション学科 専門教育科目 語学文学教育科目 2年 選択

英語学概論 A

「英語学概論」は、学生にとって馴染みのないメタ言語を通して理論や言語学の諸分野を学修する内容で、毎年困難を感じている学生が多い印象のある科目です。そのような科目が今回「学びやすかったオンライン授業」として挙げられたことは意外で、オンラインでの実施に、何か対面授業にはない効果があったのだらうかと振り返る機会となりました。

●授業タイプ、準備時間、評価方法、使用ツールなど

オンデマンド配信型で、準備には一授業あたり1、2時間、レポート評価などにも相当時間を費やしました。評価は各回のレポートと、折に触れてレポートに代えてmanabaの小テスト機能を使い授業の理解を確認しました。授業で使ったツールはmanabaで、レポート機能、アンケート機能、小テスト機能、個別指導コレクションです。

例年、対面授業では口頭での説明が主で、PowerPointを補助的な位置づけとしていました。しかし、オンデマンド授業では、学生の様子を伺いながら理解の程度に合わせて説明を重ねていくことができません。そのため、PowerPoint 資料も「主」と位置付け、例年使用しているPowerPoint資料をより詳細なものに作り変えました。学生にとっては、「聞いて」「見て」「読んで」内容を理解することが

できるようになるため、学修効果が期待できると考えました。

動画の視聴回数が履修者数の三倍程度になることが続いたため、各回の授業をしっかりと理解しようとしている学生の姿勢が伺えました。授業資料を繰り返し視聴できる点が、学びやすさ、ひいては学修効果を実感できるポイントになったのではないかと感じます。リピート再生を見越し、視聴用資料は長くても1時間程度としました。これだけでも、止めながらの再生や繰り返し再生により、かなりの学修時間が担保されることになると考えました。

●どのようなことを重視し準備したか

この授業は理論やメタ言語が続く内容で、ともすると無機質な内容になり兼ねないため、学生にとって言語が興味の対象から外されることがないようにと思いながら進めています。オンライン授業では学生の様子を伺えないことから、学生が過度に「深刻にならない」ように配慮しました。普段無意することのないことばの現象で笑えたり、ほっとしたり、感心したりできればと思い、資料を構成しました。例年以上に課題に追われ、深刻になりがちな学生にとって、こうした配慮を「学びやすさ」と感じたのではないかと想像しています。

こうした配慮のためであるかはわかりませんが、学生が質問しやすい雰囲気を感じたよう

で、個別指導コレクションを通して頻繁に質問が届くようになりました。質問があった際は、極力早く回答するように心がけました。質問した学生は、まずは教員から応答があったことに驚き、さらに応答の早さに恐縮しているようでした。教員からの応答が学生にとって何か大きな意味をもっているような感覚を覚えました。この傾向は「英語学概論」以外の授業にも見られました。

各回のレポートは高評価のものが多く、全体的な評価としても例年よりも良い印象です。しかし担当者からすると、学生の表情は伺い知れず、学修は済んだものの「ことば」に興味を持ってもらえたのか、手ごたえを感じることなく不安が残っています。やはり教室で直接学生に語りかけ、問いかけ、考えてもらいながら、言語に関する興味を抱いてもらえる環境に戻れることを望んでいます。



Writer

根本 貴行 准教授
Takayuki Nemoto人文学部
英語コミュニケーション学科

教職に関する科目 3年 選択科目

英語科教育法Ⅱ

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

標準的な授業の流れは次のとおりです。予習課題（事前課題）をmanabaまたは授業の最後で連絡し、学生は課題を事前にmanabaのレポートに提出します。私はそれをざっと見て、授業で取り上げる質問や共有したい点を当日の授業で見せるPowerPointにコピーします。授業では、Webexに授業時刻に集まってもらい、出席を取り、その日の目的、流れを確認した後、学生はGoogle Meetで小グループになり、予習課題についてディスカッションし、その後、Webexに戻り、全体でグループディスカッションの内容を発表してもらいます。最後にその日の内容で分りにくい点、一番大切な点等を選び、ミニレクチャーを行いました。授業のまとめとして、manabaに載せる復習課題（振り返り）を説明しました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として予習課題に60から90分、復習課題（振り返り）に30分程度を想定しました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

学生が自分に関係づけられやすい様な課題を出し、課題を小グループ、または全体でディスカッションしやすい様に考えました。

●授業中に用いたツール

クラス全体でディスカッション、説明をするときはWebex、小グループでディスカッションをするときはGoogle Meetを使いました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

授業で見せるスライドを作るためにPowerPointを利用しました。

●成績評価の方法

予習課題、復習課題の提出、内容、授業中のディスカッションの参加等で総合してつけました。

●1回分の授業準備にかけた時間

1～2時間程度だと思います。

●その他記載

学生とやりとりができる様に、授業中では、Google Meet、Webexで学生の意見にコメントをしたり、予習課題に関して全体、または個人にフィードバックしたり、manabaの「質問がある人はどうぞ」という欄を設け、質問に答える様にしました。



Writer

太田 洋 教授
Hiroshi Ota人文学部
英語コミュニケーション学科

情報システム演習

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間は100分で、うち動画での説明は60～70分程度。授業外学修として、時間がかかる学生は平均すると最大200分程度。効率よく行う学生であれば、その半分程度以下の時間を想定。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

1. 学生の学修時間のフレキシビリティの確保
講義資料と動画を授業日の午前8時に必ず公開した。
2. 誰が授業をみても反感を覚えないようにすること
説明に使う言葉を可能な限り丁寧な言葉遣いにした。
3. 資料の見やすさ
スライドの文字を可能な限り大きくした。
4. 多様が学生への対応
学生の反応が事前には不明なため、スライドの内容に対して口頭での説明内容に、いくつかの例やアナロジーを交えた。このようにして多様なバックグラウンドを持つ学生が、どれかの観点は納得できるようにした。
5. 学生の環境の多様性への配慮
WindowsとMacを使う学生の双方に対

応するため、必要な部分は両方を用いた説明を準備した。

6. わからなくて困っている学生の早期救出

学生からの質問には、できる限り早い返信を目指した。また、たとえ学生の文章に腹が立っても、返信にはその感情を出さず丁寧にかつ誤解をできる限り生じない文章表現を心がけた。

7. 動画視聴時間の削減

動画は1本あたり15分程度を目標にして、長い場合は途中で分割した。また「あ～」とか「え～」とかいう部分を動画編集で極力カットして、動画の時間を詰めた（10％程度短くなった）。

8. コピペですませる学生対策

PDFの資料を、文字のコピーができないようにした。課題などを、少なくとも自分ですべて手を動かしてタイプしなければならなかったようにした。

●授業中に用いたツール

ハードウェア：MacBookPro

ソフトウェア：PowerPoint（スライド用）、ATOM Editor（プログラム作成用）、Google Chrome（プログラム表示用）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：MacBookPro

ソフトウェア：PowerPoint（スライド用）、ATOM Editor（プログラム作成用）、Google Chrome（プログラム表示用）、iMovie（動画編集用）

●成績評価の方法

通常（シラバス記載）どおり。具体的には毎回のレポート（ミニッツ）、中間提出課題2つ、最終課題。ただし中間課題の数は学生の負担軽減のため例年より減らした。

●1回分の授業準備にかけた時間

オンライン授業対応部分：授業の録画時間は準備作業も含めてほぼ100分。その後の編集作業が録画時間の倍の3時間程度。

対面と同じ部分：学生の毎回の提出レポートのチェックと、提出物の確認。理解状況をもとにした次週のスライド改定。平均すると1コマあたり2時間程度か。



Writer

小池新教授
Arata Koike人文学部
英語コミュニケーション学科



英語コミュニケーション学科 専門教育科目 コミュニケーションゾーン専門科目 3年 選択

観光事業演習I

●授業タイプ

オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として平均60分。

第1回から第7回までが、オンデマンド配信により、観光や観光マーケティングに関する基礎知識や専門用語を理解してもらいました。第8回から第12回までは、リアルタイム配信でグループワークをおこない、新型コロナウイルスの環境下でも可能な新たな観光旅行企画を検討し、企画をまとめてもらいました。受講生全員に全チームの企画を評価してもらい、上位のチームには発表してもらいました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

オンライン授業に限りませんが、観光客からの視点だけではなく観光を造る側からの視点から、観光の楽しさと大変さを知って欲しいと思って授業を準備しています。特に今回は、コロナ禍で観光業や観光地が厳しい状況に直面している実情を伝える共に、いつの時代も人は旅をしてきたこと、オーバーツーリズムの改善、オンライン観光の登場など、前向きな事例を多く取り上げ、学生自身にも視野を広げながら興

味関心がある観光の事象を調べてもらうようにしました。また、私からのオンデマンドでの一方的な話だけでは退屈だと思い、スキー場兼ホテル経営者の方にご協力をして頂き、事前に学生から質問を集め、対談形式で学生からの質問に答えたものを録画し、オンデマンドで視聴してもらいました。オンラインでグループワークを実施することに不安もありましたが、オンラインであっても1人では思いつかないアイデアを共有し、上手くいかないこともチームで乗り越えること、通常、商品企画は一人ではなく、複数の人と協力して作り上げていくことを体感して欲しいと思いました。

●授業中に用いたツール

- ・PowerPoint (講義のスライド)
- ・respon (理解度の確認や興味関心を確認するためのアンケート)
- ・新聞記事やネット記事のサイトリンク (観光関連の記事の紹介)
- ・YouTube (観光関連の動画をみってもらう、オンデマンド配信)
- ・mapsmeとGoogolemap (地図で場所の確認)
- ・Webex (リアルタイム配信)

・Google Meet (リアルタイム配信でのグループワーク)

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

・PowerPoint (講義スライドの作成)

・manaba (コースニュース、コンテンツ、アンケート、レポート、スレッド)

●成績評価の方法

1単位：総合的な評価

毎回の授業の復習／質問／感想manabaアンケート40%、個人課題30%、グループ課題30%

●1回分の授業準備にかけた時間

manabaアンケートでの質問への返信と授業準備で1日程度



教育・学校心理学

●授業タイプ

オンデマンド配信／リアルタイム配信

具体的には、①授業1週間前に事前学習課題として動画（音声付きPowerPoint）の視聴とそれに基づいた簡単な課題（manabaアンケート機能による、練習問題や動画で説明された理論の説明等）を設定し、②時間割の時間帯にリアルタイム配信（Webex）の授業を行いました。通信状況等のためリアルタイム配信の一部あるいは全部に参加できなかった学生には、録画したものを視聴して授業後課題を入力してもらいました。

●1回当たりの学修時間の想定

動画は10～15分程度のもを2～3提示し、課題の実施を含めて60～90分程度の内容です。リアルタイム配信授業では、履修生が事前学習で入力・回答した内容をいくつか取り上げて画面共有しながら、それらへのコメント、動画の内容で誤って理解している点の再説明、学習内容の追加・補足講義、チャットによる意見交換などを60～70分程度行いました。終了後に、manabaアンケートで、授業内容に関する簡単な課題や感想を提出（10分程度）させました。合計の学習時間は、事前・事後学習時間を合わせて130～170分程度の構成です。

●成績評価の方法

①授業参加態度として事前学習課題

（manaba入力内容）、②自主レポート、③筆記試験の代わりのレポート、で評価しました。例年からの変更は③のみです。レポートは学習した複数の理論に基づいて自分の考えを述べる内容のものを設定しました（一部で数名の回答に類似の記述内容がみられ、おそらくWeb上で検索した資料等を基に記述したものと思われました）。

●1回分の授業準備にかけた時間

授業の準備としては、事前学習課題用の動画収録、事前課題のmanabaアンケート及び事後のmanabaアンケートの設定、リアルタイム配信用の資料の準備（これまでは紙資料を提示していたのでPDF化）が主なものでした。動画やリアルタイム配信で使用した資料は、基本的には昨年度までのものをベースにしました。ただし、スマートフォンやタブレットなどの比較的小さい画面で視聴する可能性を考慮し、多少文字の大きさや見えやすさを修正しました。また、学習内容をさらに深めるための関連資料（新聞記事や論文等）をmanabaにアップしました。

●その他記載

授業実施において気を付けた点

まず、毎回の授業で動画視聴（オンデマンド）とリアルタイムが併用になり、かつ合計学習時間が100分を超えるため、学生に対して、授業の進め方等を丁寧に説明しました（授業の

構成、オンデマンド課題は事前学習課題を含んでいること、各課題等と成績評価の関連等）。

次に、事前学習課題の提示場所・曜日・提出方法などをパターン化し、履修者が一定のリズムで取り組めるようにしました。

また、学生同士の意見交換の場を作るために、前半はmanaba掲示板を使ってみましたが、受講生が75名程度と多いためか、ほとんど機能しませんでした。そのため、後半はWebexチャットを使用したところ、学生からは非常に好評でした。具体的には、リアルタイム授業内で短文で回答できる簡単な質問を投げかけ、全員にチャットで入力してもらいました。深い共有は難しいですが、大勢の意見が一度に共有できるため、多様な考え方を知る方法としては有効だと思います。



Writer

三浦正江教授
Masae Miura人文学部
心理カウンセリング学科

心理的アセスメント

●授業タイプ

オンデマンド配信（メイン）／資料・課題提示（サブ）

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として、概ね80分程度（15～20分の動画×2～3本、20分程度のシェアリング動画×1本、10分程度の実践）。授業外学習として、授業の準備や資料を用いた授業内容の体験、課題を通した振り返りなどで90分を想定しました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

多くの学生が初めて体験するであろうオンライン授業で、学びへの意欲と集中力を保ち続けられることを重視しました。そのために、以下のような点を工夫しながら準備をしていました。

- ・メリハリをつける：複数の短時間動画にする、途中で動画を止めて実践する時間を挟むなど
- ・視覚と聴覚を意識する：アニメーションを活用して視点を誘導する、イラストを多く用い

てイメージを補強する、余白や太字・フォントの色を活用する、プリントに書き込む内容を示す際には効果音を鳴らす、ノイズを抑制したり録音環境を一定にしたりするなど聞きやすい音を作る。など

- ・遊び心を入れる：動画の最初と最後に入れるジングルを毎回変える、シェアリング動画で授業内容と関係ないような質問（教員の趣味など）も取り上げる など

●授業中に用いたツール

- ・PowerPoint：スライドショーに解説をのせたものを授業動画として、学生が慣れているであろうYouTubeにアップロードしました
- ・レーザーポインタ：PCモニタ上にカーソルを表示できるものを用いました

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

- ・コンデンサーマイク
- ・サブモニタ：動画の作成や編集用（導入したことで、作業がとても楽になりました）

- ・AviUtl：動画編集ソフト

- ・Open Broadcast Software (OBS)：PCモニタを録画するソフト

●成績評価の方法

- ・毎回の課題
- ・期末レポート

●1回分の授業準備にかけた時間

7時間程度（動画用と配布用の資料作成、動画の録画やエンコードなど）



Writer

齊藤和貴特任講師
Kazuki Saito人文学部
心理カウンセリング学科



心理学科 専門教育科目 心理教養科目 1年 必修

心理学概論

●授業タイプ

オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として約60分の動画を視聴しながら90分。授業外学修として、授業前の準備や動画の見直し、その他授業に関連した広い意味での学びの時間（授業の内容を家族とシェアする等）を含めて180分を想定しました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

新入生にとっては入学してはじめての授業でしたので、学ぶ上での心構え（暗記して欲しいのではなく、こういうことを理解して欲しい等）を繰り返し伝えることを意識しました。私自身もPCに向かって授業するのは不安だったので、その不安を伝え、なるべくミニレポートを介して声を聞かせて欲しい旨をお願いしました。寄せられた感想・質問を、次の回にシェアリング動画として通してアップするようにし、少しずつ対話ができてくると、私の方も目の前の学生に話しかけるよう録画することができるようになっていきました。

授業の内容は基本的には対面講義の時と大きく変えていません。ただ、オンラインだと学

びの提供が足りていないように感じてしまい、いつも以上に情報を伝えたり課題を課してしまいがちですが、「こちらの想定以上に学生には負荷がかかっている」ということを毎回の自分に言い聞かせて、セーブするように気をつけていました。特に「レポート」と名前のつく課題では、一生懸命な学生ほど必要以上に時間をかけて長文を書いてしまうので、敢えてシェアリングで短く軽い感想を取り上げることもありました。また、本来効率的な集中に必要である「授業中にちょっとボーっとする」といったことがオンラインだとできないので、少しリフレッシュの動画を挟むなどして、学生に対して間接的に学修ペース調整のメッセージを伝えるようにしました。

●授業中に用いたツール

Power Pointに解説を付けた授業動画（約20分×2）、シェアリング動画（約20分）、穴あきプリント（A3・1枚）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PC（Windows）、動画編集ソフトCamtasia、マイク付きイヤホン

●成績評価の方法

毎回のミニレポート、テスト

●1回分の授業準備にかけた時間

5時間程度（授業スライド・資料はすでに前年のものがあるので、すぐに終わると思って準備を始めると結局このくらいかかってしまっていました）



Writer

平野真理講師

Mari Hirano

人文学部

心理カウンセリング学科



教育福祉学科 専門教育科目 共通専門科目 3年 選択

社会福祉演習（田中）

●授業タイプ

リアルタイム配信

ゼミなので、毎回リアルタイムで学生とつながりました。

●1回当たりの学修時間の想定

2コマ続きなので、授業時間は200分でした。15時20分～18時55分まで。途中休憩をはさみませんが、授業の進行に合わせて10分～15分程度です。授業外学修は100分程度でしょうか。グループを作りそれぞれが課題をまとめる授業でしたので、課題に合わせて授業外学修の時間が決まるといえます。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

ゼミですので、学生の主体性を尊重しました。基本的には学生たちがやりたいことを決め、それをまとめていくというやり方です。グループはあらかじめこちらで分けていましたが、それぞれのグループの中でブレインストーミングとKJ法を用いてゼミでやりたいことを出し合い、優先順位をつけ、各グループのテーマを決めます。さらにそのテーマをゼミ全体に事前学習として投げかけ、次の週には担当グループが取り仕切ってゼミ全体で議論を深め発表するような形式にしました。

●授業中に用いたツール

最初はWebexを用いましたが、グループ学習がメインになりましたので、すぐにGoogle Meetを多用しました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

特にありません。

●成績評価の方法

通年科目のため、まだ評価には至っておりません。

●1回分の授業準備にかけた時間

学生の希望に応じて必要な情報を検索したり、場合によっては人を探し出したりといった作業をしたが、毎回同じ時間かけるといったものでもなかったので、回答しづらいです。

●その他記載

前期に行ったこととして、毎回順番で担当者を決め、今日の手話と近況を話してもらいました。グループごとに課題を決め、それについてそのグループが発表するというのではなく、そのグループが担当者になって課題設定をして各グループに話をしてもらって、それをまとめるというやり方を取りました。

前期に取り上げたテーマは、①短い動画（場面緘黙症について）を見て、主人公の強みに視点を当ててできることやこれからの生活につ

いて考える。②障害にまつわる事件について調べる。③相模原事件に関する報道、特に海外での取り上げ方などを調べる。④海外のバリアフリー状況を調べる（スウェーデン、フィンランド、デンマーク、イギリス）で、それぞれのテーマについて、各班がファシリテーターとなって1回を担当しました。

このほか、障害のある人の動画を見て、サービス等利用計画を作成してみるといった実践的なことを行いました。現在は学祭に向けて、ユニバーサルデザインの点字の絵本を作っています。



Writer

田中恵美子准教授

Emiko Tanaka

人文学部

教育福祉学科



教育福祉学科 専門教育科目 共通専門科目 1年 必修

社会福祉概論

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

(授業時間85分～90分。授業外学修30分程度) 毎回休憩時間(7分～15分)

学生たちが課題学修で大変と言ってきたので、授業外学修は少なく設定しましたが、大きなレポートや試験前学修をならすと、もっと時間は多くなると思います。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

1年次必修科目であり、皆大学の講義に接したいと思っているようだったので、Webexで大学の講義を意識し進めました。リアルタイム型授業の長所も活かし、社会の出来事を話題として取り上げ、問いかけたりしました。

資料は、写真や図を多く使用しました。レジュメは当初、PowerPointだけを事前配信していたのですが、ソフトを1年生だと入っていない人も多く、学生から要望もあったので、途中から、PPT版とPDF版の両方をmanabaにアップしました。学生からの意見や質問は、次の授業に紹介したり、再度詳しい説明をして対応しました。

●授業中に用いたツール

manaba、Webex

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PC、PowerPoint、PDF

●成績評価の方法

通年授業なので、まだ成績はつけていません。レポートでなくシラバス通り試験をとの声が多くあがりましたので、前期内容全体を網羅した試験をmanabaの小テスト機能を用いて前期末に行いました。通信状態を考慮し、悪かった場合連絡をさせ、翌日まで提出時間を延長しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

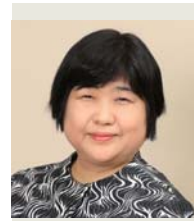
アンケートを読むこと、質問や意見に全て回答することに毎週3時間程度、学生たちの意見を反映させた資料作成・予習に3時間程度で、あわせて毎週最低でも6時間程度は時間をかけました。

●その他記載

随時意見や質問を促し、対応したことは、授業活性化のため良かったと思います。学生たちはチャットに抵抗がないらしく、かなりの学生が自然に意見や質問を書き込んできました。それらは、担当教員と当該学生だけのやりとり

の形で送られてきたものもあれば、全員に発信されたものもあります。返信はもちろん当該学生だけに返した物もありますが、全員に再発信する形に変えて、多くは伝えました。

また、授業途中で必ず休憩時間をとったのですが、前期の終わりの頃には、その休憩時間に顔を出して相談する学生や、授業後に残って質問する学生等が増えてきました。これらに即時対応できたのは、リアルタイム型授業の長所だと思います。



Writer

平戸ルリ子教授

Ruriko Hirato

人文学部

教育福祉学科



看護学科 専門教育科目 専門科目 成人看護学 2年 必修

成人看護方法論I(慢性期)

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分、授業外学修として30～60分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

アクティブラーニング、フィードバック、適度な集中力、興味の湧く動画。

●授業中に用いたツール

<各疾患の看護の講義16回>

教員5名で授業の構成を統一しました。

YouTube約25分視聴①→manaba respon(知識確認テストやアンケート)→YouTube約25分視聴②→Webexにてresponのフィードバック約20分→manaba小テストやアンケート(翌月曜9時提出)

<事例学習5回>

学生を4人ずつのグループに分け、5グループ22名ずつを教員1～2名が担当しました。

事前(当日9時)に各グループが質問をmanabaプロジェクトのスレッドにアップ→YouTube約20分視聴→各教員のWebexにて質疑応答を約60分→manabaプロジェ

クトへ記録提出(土曜12時)→担当教員がチームスレッドへコメント(翌週)→最終回はmanabaレポートへ提出

<技術演習3回+補習2回>

3回は講義と同じ形式。補習2回200分は、学生18名ずつグループで各60分×3種類の技術を、Webexにて動画視聴やロールプレイをしながら、学生に発問し、学習をすすめました。

●成績評価の方法

定期試験(manaba小テスト)50%、事例学習22%、各回のレポート・小テスト等28%

●1回分の授業準備にかけた時間

科目責任者として授業全体の企画と、講義9回、事例学習5回を担当し、20～25分の動画を23本作成しました。私の授業は難易度が高すぎると3～4割の学生からコメントされるので、難易度は下げず、言葉を厳選したシナリオを作って録音しました。看護師のユニフォームを着て患者教育場面を自撮りした回もあります。1回の授業準備に2～3日はかかりました。

●その他記載

CRED授業アンケートではすべての項目が前年度より0.1～0.3上昇し、目標達成

度は平均3.34点と過去最高でした(回答率92.7%)。看護師は、日々進化する医療技術と患者さんの生活との間に立ち、いのちと健康を守る専門職です。オンラインだからと学修到達目標を下げるわけにはいかない、という熱意が伝わったのでしょうか。繰り返し視聴できるオンデマンド配信とWebex等によるフィードバックが学生には好評でした。



Writer

太田美帆准教授

Miho Ota

健康科学部

看護学科



看護学科 専門教育科目 専門科目 看護の基礎 2年 必修

看護の基本技術Ⅲ

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

そのほか資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間は、100分、授業外学修では100分程度とした。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

新型コロナウイルス感染症予防対策に伴い、学生にとって今までとは違った学習形態に急に変更となり、学生の不安は大きいと推察した。そのため、質問、相談をWebやmanabaの個別コレクションで受けるように努めた。

この科目は、診療の補助に用いる看護技術を学習する。1年生で学習した感染に関する知識・技術の学習の積み重ねであり、今回の新型コロナウイルス感染予防策として、学生には自ら感染から自分を守ることができるように基本的な知識と衛生的な手洗いの目的と方法について復習することを事前課題とした。授業では、新型コロナウイルス感染対策として、看護師としての役割、正しい知識、技術を持った感染対策の必要性を自らの気づきから学べるようにするため、事前に教材として政策の動き、医療現場の感染対策と現状など、マスコミ、厚生労働省のホームページ、現場で働く看護師からの情報などの収集に努めた。また、学生が興味をもって主体的に学習に取り組めるようなニュースを事例として取り入れた。

薬物療法を受ける患者の看護、採血時の看護

など身体侵襲を伴う技術で正しい知識の修得を目標とし、イラスト、写真などを用いてイメージできるような資料作成や、視覚教材を精選した。また、知識の修得については、過去の国家試験問題を中心に知識の確認ができるように準備した。技術の習得については、オンライン授業のために学習内容を精選し、滅菌物の取り扱いの技術が修得できるように自宅に滅菌手袋を郵送した。その後、Webexを使用したオンライン授業で教員が解説しながら、その場で学生が演習できるようにした。のちの授業アンケート結果から、オンライン授業であったが、実際に大学で演習をしている感じを受けたと意見があった。

●授業中に用いたツール

図書館からの事前の情報提供により無料電子リソースを活用させていただき、学生に視覚教材を提供しながら、教科書、学習ポイントをmanabaのコンテンツで提示し、小テスト機能を用いて調べ学習ができる機会とし、その後、オンライン授業でPowerPointを用いて解説しながら学習が修得できるようにした。

グループワークでは、課題に対する意見をmanabaのアンケートまたは小テスト機能を用いて、限られた時間内で学習を深めることを目的に事前に提出してもらい教員が個々の学生の意見を把握し、オンライン授業でのグループワークの際に学生を指名して学生間での共有と学生の達成感につながるように活用した。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PC (Windows)、動画編集ソフトiMovie、マイク付きイヤホン

●成績評価の方法

課題提出と最終の知識の確認を成績に反映させた。

PCやWebの操作の得意、不得意、また、ネット環境等の不具合など成績の差につながらないように、また、学生の心労になるべくつながらないように心掛けた。

最終の知識の確認では、テキスト、配布資料など調べながら回答する形式をとった。

課題提出は、2種類あり、一つは授業中に学習した学習内容の課題と、もう一つは翌週に知識の確認として小テストを行った成績を対象とした。

●1回分の授業準備にかけた時間

3日間



Writer

松江なるえ講師
Narue Matue健康科学部
看護学科

看護学科 専門教育科目 専門科目 成人看護学 2年 必修

成人看護方法論I (慢性期)

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として30～45分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- ・学生の学習意欲が高まるように。
- ・看護に興味を持てるように。
- ・学生が病棟にいるような臨場感を味わえるように。
- ・実際の場面を想定して考えられるように。
- ・学生の頭の中で点と点の思考が線につながるように。
- ・眠くならないような工夫
⇒途中で仕切りのスライドを入れて音楽を入れる、途中で話すテキストを変えてみる、途中1枚だけBGMを流して解説する、など。

・特に、大学生が親近感を持てる音楽選び。
※中学生の娘が学校から提示されたYouTube動画を観ていたのですが、科目によってかなり授業を受ける意欲が違っていたので、それを見習って工夫をしました。

●授業中に用いたツール

YouTube動画 → manaba response
YouTube動画 → manaba response
webEXミーティング

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

パワーポイントでナレーションと著作権フリーの音楽を入れたMP4動画を作りました。著作権フリーの音源は、主に夫の仕事用のものや著作権フリーで出ているものをネット上で探して使用しました。

●成績評価の方法

授業後のアンケートや小テストを提出物の点数として、他は領域の教員全体で作成した

manabaでの定期テストを実施。出席点などで総合的に判断しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

これまでの対面型の授業の5～10倍以上時間をかけた気がします。時間を見つけてはパワーポイントを開いて修正したり、追加したり、音楽を探したりしていました。

例年の授業準備よりもかなり時間をかけましたが、自分自身楽しみながらやっていました。



Writer

瀧田結香講師
Yuka Takita健康科学部
看護学科



リハビリテーション学科 理学療法学専攻 専門教育科目 専門科目 基礎理学療法学 1年 必修

理学療法学概論

●授業タイプ

リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として60分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

新入生に4年間の理学療法に関する学習のモチベーションを高めてもらうことを重視しました。

●授業中に用いたツール

Webex、respon（授業中の質問、出席管理）、manaba（小テスト、個別指導）

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PowerPoint

●成績評価の方法

定期試験

●1回分の授業準備にかけた時間

300分



Writer

齋藤昭彦教授
Akihiko Saito

健康科学部
リハビリテーション学科



リハビリテーション学科 作業療法学専攻 専門教育科目 専門科目 作業療法治療学 3年 必修

身体機能作業療法学

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として15分×3 45分。授業外学修として60～90分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

授業の内容は、焦点を絞ってあまり盛り込まないように心がけ、できるだけわかりやすい言葉を意識しました。指定教科書で混乱しやすい内容や用語を解説し、補足としては、臨床場面の患者さんの動画を多く使用しました。オンデマンドの動画時間は、他の先生方から情報も得て15分以内で3コマぐらいの動画に編集して使用しました。質問に対しては、即日回答するよう心掛け、レポート課題の回答もできるだけ早くフィードバックしました。質問やレポートで多いものや混乱しているものについては、全員に配布するように心がけました。

●授業中に用いたツール

manabaを主に使用し、毎回の授業内容はレジュメを作成し、1週間前に配信しました。授業当日に動画配信を行い、動画視聴中の質問は、manabaを通じたチャットで対応し、質

問にはリアルタイムで回答しました。動画視聴後の質問についても受け付けて、できるだけ早く回答しました。レポートはmanabaとメールのどちらからでも受け入れるようにしました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

基本的には、manabaでの配信とメールでのやり取りとしました。動画は、YouTubeにアップし一定期間視聴できるようにしました。

●成績評価の方法

本来であればテストやグループワークを行いたいと考えていましたができませんでしたので、毎回の質問やレポートで判断しました。今後は、オンライン上でのグループワークが可能なmanabaのコンテンツやGoogle Meetsを使ったグループワークを計画し試みたいとかんがえています。一方で、対面授業としての重要性も再認識したため、可能な時間帯での対面授業やテストを実施したいと考えています。

●1回分の授業準備にかけた時間

初めての教職でしたので、計画の段階からかなりの時間をかけました。当初は、1回目の授業につき、10時間程度かかっていましたが、7

回ぐらいが終了したぐらいからようやく慣れて半分ぐらいの時間でできるようになってきました。ゴールデンウィークはすべて授業準備にあてたように記憶しています。

●その他記載

専任教員となり、初めての授業が、オンライン授業となりかなり困惑しました。も初めてのことでした。周りの教員の皆様に助言をいただきながら、授業教材を作成しましたが、かなりの時間と労力のいる作業でした。今回の授業の反応からは、学生の雰囲気を感じることができませんでした。違う側面での反応がなかったことは今後につながるものと思います。このような機会をいただき誠にありがとうございました。



Writer

斎藤和夫准教授
Kazuo Saito

健康科学部
リハビリテーション学科



リハビリテーション学科 作業療法学・理学療法学専攻 専門教育科目 専門基礎科目
 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 2年 必修

摂食・嚥下機能学

●授業タイプ

この授業は全14回で、最初の2回を資料・課題提示、3～14回を資料・課題提示／オンデマンド配信で実施しました。

1・2回目の資料・課題提示方式では、スライドPDF、各スライドに対する説明文書、講義資料の3つで学修します。講義資料は、スライドのレジュメと図・表などの資料を載せたプリントで1講義につきA4で7～10枚あり、スライドと説明文書を学修ながらレジュメ内の（ ）や空欄を学生が各自で記載していきます。この授業ではテキストを指定しておらず、講義資料はノート兼テキストとして利用できるものを目指しました。3回目以降の資料・課題提示／オンデマンド配信方式では、スライドPDFと説明文書をなくし、Google Driveにアップした説明音声付Power Point動画を視聴し、1・2回目と同様に講義資料を各自で完成させる形式でした。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として80～100分、授業外学修として40～60分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

Power Point動画は、1講義のPower Pointを3～4つに区切り、1つあたり10～20分の動画にしました。動画を短く分けるこ

とで、学生の疲労に配慮しました。また、各講義に視聴期間を設け、ため込まず一定期間で学修を進めていくように促しました。スライドには、写真や図表を多用し、疾患の状態や訓練の様子を想像しやすい内容にしました。

課題レポートを課した授業では、個人で課題を遂行できるよう課題の実践方法のビデオ動画を作成しました。

●授業中に用いたツール

manabaコースコンテンツ・小テスト・アンケート・レポート・スレッド、Google Drive

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PC、iPad、スキャナー
 Power Point、Word、iMovie

●成績評価の方法

manaba小テスト利用での定期試験、毎回の小テスト、課題レポート

●1回分の授業準備にかけた時間

Power Pointと講義資料は昨年の同授業を最新の情報に修正して利用しました。1回分の授業準備では、確認・修正作業と、Power Pointへの音声入力で約半日かかりました。Power Pointと講義資料を最初から作成する場合は、1～2日程度かかると思います。

●その他記載

動画視聴以外で授業当日には、3問程度の小テスト、アンケート回答、スレッドに設けた「Q&A」の投稿または閲覧を出席条件としました。授業内容への質問は「Q&A」に投稿してもらい、質疑応答を共有してもらうために質問がない場合も閲覧を必須としました。毎回のアンケート内容は、授業の理解度、スライド・講義資料の内容・量の感想、学修時間、自由記載です。自由記載の意見は動画・講義資料作成の参考にしたり、自由記載に授業への質問が記載される場合もあったので内容に応じてスレッド「Q&A」にて回答しました。自由記載にコメントした学生には、当日中の回答を心掛けました。



リハビリテーション学科 理学療法学専攻 専門教育科目 専門科目 理学療法評価学 2年 必修

理学療法評価学I

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

1回の授業は、15分×3動画＝約50分ほどで構成しました。

授業外学修として毎回100分ほどかかる課題を求めました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

授業は動画によるオンデマンド形式で視聴してもらい、動画の補助的役割を担うスライドも授業が始まる前にmanabaで配布しました。その授業の開始時（動画の最初）に、何に注目して動画を視聴すべきかの最重要ポイントがわかるように「到達目標」を設定しました。提出課題は全て到達目標に関係するものとし、動画をしっかり視聴しないと適した回答ができないよう工夫しました。また、図、写真、実技に関する動画を多く取り入れ、視覚的に飽きないよう努めました。さらに、授業の復習を確実にものとするため、manabaを使用して定期的に小テストをリアルタイムで行いました。

●授業中に用いたツール

動画はYouTubeで視聴してもらいました。manabaに動画のURLを貼り、スライドや参考資料もmanabaに掲載しました。全ての授業資料は授業が始まる4日前には学生に提示しました。余裕のある学生が早目に取り掛かれるようにし、余裕のない学生でも課題提出が遅れないよう2週間の提出期限を設けました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

動画作成のため、Adobe Premiere Proを使用しました。その他、録音のためのマイクも用意しました。Windowsに標準で付属しているゲームバーというソフトは、PC画面の録画が可能なので非常に有用でした。

●成績評価の方法

小テストと期末試験のみで評価しました。成績評価の方法や小テストと期末試験の成績に対する割合なども第1回目の授業開始前に提示し、意識的に授業に取り組んでもらえるようにしました。

●1回分の授業準備にかけた時間

1回の授業の準備に少なくとも10時間以上は費やしました。いくつかの授業を同じ形式で作成したため、はっきり言って時間が足りない状態が続いたように思います。授業後の質問や授業アンケートの結果からこの授業の改善点などもわかってきましたので、後期の授業に役立てたいです。





基礎教養科目 人間と自然 1年 選択

神経科学

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

昨年度までも行っていた授業時の配布資料として、講義スライドをA4用紙に6枚ずつにまとめたPDF配布資料を講義の1～3日前（事前学修を課題を提出した後に提示する目的）にmanabaに掲載。リアルタイム双方向型では約50分ほど連続し、途中10分ほど休憩を入れ、その間に学生はチャットで学籍番号と名前を登録する様にした。後半は40分ほどで最後にmanaba掲載と同じ内容に事前課題を提示した。質問はチャットを用い、かつ授業最後に時間に余裕があった場合は双方向で受け付け、参加者全員で共有できる様にした。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として約90分。授業外学修として15～30分（学生は1日4科目あることを想定し、過剰な負担にならない様に配慮した…つもり）

授業の5～7日前に、事前学修として次回行う授業のkey wordとなる事項について調べる、あるいは自分の経験談をまとめる様に課題を提示。（例：神経科学では「あなたにとってこことはどこにある」など）毎回提示し、学生が提出した事前学修内容を早く提出した順に約10名分ほどをスライドにまとめておき、講義の開始20分ほどかけてコメントを交えてFBし、同じ講義を受けている学生がどの様な考えを持っているかを共有してから授業を進めた。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

医学用語などをできるだけわかりやすく伝える様に配慮し、特に診断名で考えるのではなく、それぞれの症状に気づくこと、そのためにもまず自分の症状や環境を見つめ直すことに重点を置いた。これにより「ヒトを知る」ことへの興味を惹き起こす様に配慮した。そのためにも図示や患者さんの動作、絵画などの作品、動画、さらにはカメラ越しの実演するなどで対面授業と同様に感じられる様に考慮した。

●授業中に用いたツール

PPT (Keynote) でスライドを提示することを主とし、漸次筋弛緩法や診察所見などについてカメラ越しに実演した。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PPT (Keynote)、PDFにて配布資料。Webex meeting中にチャットで学籍番号と氏名を登録し出席確認した。

●成績評価の方法

出席（授業参加態度）として授業中のチャット＋リアルタイムで途中接続がうまく行かない学生の救済処置としてmanaba掲示板に掲載の配布資料閲覧履歴で出席扱いとした。

事前学修は授業開始までを提出期限とした。提出していない学生には何回かの授業で未提出であることの確認を行い、全員提出する様配慮した。

期末レポートを評価の基本とした。全員評価

に値する内容であることが確認できた。

●1回分の授業準備にかけた時間

基本的に昨年度までの授業スライドを中心に、up to dateの情報を盛り込み、図示を少しずつ追加修正する作業と、事前学修の内容をスライドにまとめる作業に約90分。manaba掲示用にスライド内容から患者さんの絵画などの情報は除いてPDF版作成に約30分。合計約2時間程度。一番難渋したのが授業終了後の出席確認で、神経科学は142名の出席でチャットを用いる前は「参加者」にあるアプリの名称でチェックしていたが、学籍番号がなかったり、愛称で登録してあったりで確認に2時間近くを要した。チャットに学籍番号と名前を記入する様になって1時間以内に短縮できた。



Writer

宮島祐教授
Tasuku Miyajima
子ども学部
子ども支援学科





基礎教養科目 人間と情報 1年 選択

情報機器の操作

●授業タイプ

「オンデマンド配信」を基本とし、これまでの学習内容に基づいて課題に取り組む回などでは、「資料・課題提示」形式を用いました。

●1回当たりの学修時間の想定

授業は動画の閲覧と受講生の作業、コメントや製作物の提出が100分におさまるよう気をつけました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

オンライン授業やコロナ禍での受講生の不安を受け止め、安心して授業を受けることができることを最も重視しました。具体的には、授業の動画の中で、学生からのコメントや提出物へのフィードバックを対面授業以上に積極的に行いました。また、些細なことでも質問があれば個別指導コレクションを利用するよう繰り返し伝え、双方向的なコミュニケーションを図りました（終了時まで110件を超える投稿がありました）。

また、全体的に視覚的に理解しやすい工夫を実践しました。PowerPointの資料は動画にした際に、視認性が落ちるため、28ポイント以上のフォントで設定したり、スライド1枚あたりの情報量を減らしました。manabaの掲示の際には、「見出し」機能を用いたり、「何を」「どの順番で」「いつまでに」取り組むのか明示しました。個別指導コレクションでの学生とのやり取りでは、ひとりひとりの困りごとに応じて、スクリーンショットを用いた補助資料を用意しました。

●授業中に用いたツール

特別なツールやソフトは利用していません。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

特別なツールやソフトは利用していません。

●成績評価の方法

毎回の授業中の提出物、授業外学修への取り組み、3回のレポート課題（Word・Excel・

PowerPointで1回ずつ）の合計点で評価しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

授業準備には、4時間前後かかっていると思います。個別指導コレクションへの回答については、その都度対応していましたが、合計すると毎週約2～3時間は必要でした。



Writer

水野雅之講師

Masashi Mizuno

子ども学部

子ども支援学科



子ども支援学科 専門教育科目 基礎理論科目 3年 必修

相談援助

私が担当している「相談援助」の授業は、悩みや問題を抱えている人から相談を受け、解決のために行うサポートについて学びを深める演習形式の必修科目です。134名が3クラスに分かれて受講する本授業は、本来グループワークの時間を多く設定し、グループでの事例分析を通して、援助対象者への理解を深めて相談援助の理論を学ぶ構成にしています。

本年度はコロナ禍のため、①：資料・課題提示と②：オンデマンド配信を合わせた④タイプで授業を行いました。テキストを使用した授業でしたが、PowerPointで授業資料を作成してmanaba上で資料提示しました。また、そのPowerPointに音声挿入してYouTubeに動画をあげて、manabaよりオンデマンド配信を行いました。授業の最後には事例のレポート課題を出し、manabaのレポート機能を利用して提出してもらいました。レポートの出題は「オンライン入力レポート」を選択し、ポートフォリオに追加して「提出者本人と教員のみ閲覧・コメント可（個別指導）」を選択しました。提出されたレポートは全て目を通し、

必ずひと言はコメントを付けて返すよう心がけました。また、レポートに見られた良い意見や全体で共有したい意見については次回授業の冒頭にフィードバックの時間を設け、スライドを作成して紹介しました。質問についてもフィードバックの場で回答し、クラス全体で共有を図りました。このフィードバックには10分から15分程度の時間を割きました。

以下、CREDの授業アンケート（自由記述）について一部ご紹介します。

- ・もう一回聞きたい内容や、復習をするときなどに見返せるのでとても勉強しやすかったです。
- ・スライドに出てきたものは教科書にアンダーラインを引くなど工夫して授業を受けました。
- ・同じクラスの友だちの意見も知ることができ、自分にはなかった考え方も同時に学べて良かったです。
- ・とても動画が見やすく、質問や疑問にしっかりと答えてくれて、普段と変わらない充実した講義を受けることができました。

・私の考えに対する先生のコメントでだんだん自信をもって答えることができるようになりました。

このような授業アンケートの結果から本授業を振り返ると、①なるべく普段の授業と変わらず同じように授業を行うこと、②受講生の意見や質問を共有できる時間を設定すること、③教員と受講生との双方向のやり取りを保障すること、これら3点を大切に授業だったと言えると思います。



Writer

阿部崇准教授

Takashi Abe

子ども学部

子ども支援学科



子ども支援学科 専門教育科目 支援科目 4年 選択

健康保育B（病児・病後児保育）

●授業タイプ

資料・課題提示／リアルタイム配信

昨年度までも行っていた授業時の配布資料として、講義スライドをA4用紙に6枚ずつにまとめたPDF配布資料を講義の1～3日前（事前学修を課題を提出した後に提示する目的）にmanabaに掲載。リアルタイム双方向型では約50分ほど連続し、途中10分ほど休憩を入れ、その間に学生はチャットで学籍番号と名前を登録する様にした。休憩時間中に教室外のキャンパス風景（かせい森のおうち、正門のロータリーなど）をカメラを通して見せるなどした。後半は40分ほどで最後にmanaba掲載と同じ内容に事前課題を提示した。質問はチャットを用い、かつ授業最後で時間に余裕があった場合は双方向で受け付け、参加者全員で共有できる様にした。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として約90分。授業外学修として15～30分（学生は1日4科目あることを想定し、過剰な負担にならない様に配慮した…つもり）

授業の5～7日前に、事前学修として次回行う授業のkey wordとなる事項について調べ、あるいは自分の経験談をまとめる様に課題を提示。（例：健康保育Bでは「あなたの居住地のそばにある病児・病後児保育室はどのような場所にある」など）毎回提示し、学生が提出した事前学修内容を早く提出した順に約10名分ほどをスライドにまとめておき、講義の開始20

分ほどかけてコメントを交えてFBし、同じ講義を受けている学生がどのような考えを持っているかを共有してから授業を進めた。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

医学用語などをできるだけわかりやすく伝える様に配慮し、特に診断名で考えるのではなく、それぞれの症状に気づくこと、そのためにもまず自分の症状や環境を見つめ直すことに重点を置いた。これにより「ヒトを知る」ことへの興味を惹き起こす様に配慮した。そのためにも図示や患者さんの動作、絵画などの作品、動画、さらにはカメラ越しの実演するなどで対面授業と同様に感じられる様に考慮した。

●授業中に用いたツール

PPT（Keynote）でスライドを提示することを主とし、健康保育では様々な病気についてDVD動画をデスクトップPCに映し出し、その画面をWebexに繋いだモバイルPCで撮影して学生に画面共有した。漸次筋弛緩法や診察所見などについてカメラ越しに実演した。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PPT（Keynote）、PDFにて配布資料。Webex meeting中にチャットで学籍番号と氏名を登録し出席確認した。

●成績評価の方法

出席（授業参加態度）として授業中のチャット＋リアルタイムで途中接続がうまく行かない学生の救済処置としてmanaba掲示板に掲載の配布資料閲覧履歴で出席扱いとした。

事前学修は授業開始までを提出期限とした。提出していない学生には何回かの授業で未提出であることの確認を行い、全員提出する様配慮した。

期末レポートを評価の基本とした。全員評価に値する内容であることが確認できた。

●1回分の授業準備にかけた時間

基本的に昨年度までの授業スライドを中心に、up to dateの情報を盛り込み、図示を少しずつ追加修正する作業と、事前学修の内容をスライドにまとめる作業に約90分。manaba掲示用にスライド内容から患者さんの絵画などの情報は除いてPDF版作成に約30分。合計約2時間程度。一番難渋したのが授業終了後の出席確認で、チャットを用いる前は「参加者」にあるアプリの名称でチェックしていたが、学籍番号がなかったり、愛称で登録してあったりで確認に1時間以上を要した。チャットに学籍番号と名前を記入する様になって1時間以内に短縮できた。



Writer

宮島祐教授
Tasuku Miyajima
子ども学部
子ども支援学科





子ども支援学科 専門教育科目 総合実践科目 2年 必修

子どもの造形Ⅱ

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として100分

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

科目の特性として演習、制作実技のため、以下の点に配慮しながら授業準備、実施しました。

①自宅での制作可能な環境、教材への配慮

画材および教材を授業実施前に全員へ発送。
また各自の制作において自宅で用意できる範囲での課題提示、代用の許可

②分かりやすい動画によるデモの提示（教員の制作負担の軽減も工夫、持ちコマが10コマ／週でしたので一番の課題でした。）

講義の場合

PC画面上で、PowerPointとPhotoBooth (Mac) を開き、講義の解説を教員顔出し (MacなのでPhoto Booth使用) で「画面録画機能」(shift+command+5) で録画し、YouTubeへUP。資料はPDFでmanabaへ添付。

PowerPointの画面録画よりもデータ処理が軽く、速くなった気がします。

制作デモの場合

iPhoneを用いて制作プロセスを撮影、iMovieアプリで編集（無音、倍速でも理解できるようテロップを入れる）し、そのままYouTubeへUP。

iPhoneひとつで、動画撮影、編集、公開と手間が省けました。

③学生の課題へのレスポンス

学生は、課題制作の過程を撮影し、事後課題としてポートフォリオにまとめ、manabaレポートへ毎回提出。

評価とコメントを記入し、成績欄で公開しました。

対面授業であれば、授業中にアドバイスが出来ますが、事後のコメントになってしまう点はオンラインの欠点です。ですが、教員がコメントすることにより、次回以降のモチベーションにつながったと学生アンケートの自由記述でも確認しました。

④学生間で他者の活動を共有できる場を配慮

対面授業であれば、周りの学生の活動から感化しあい、刺激になりますが、独力の制作となる孤独感は感じたようです。

教員としては、提出作品を、毎回WebGalleyとしてまとめ、掲示板で公開し、1人1つポジティブコメントを投稿させることにより、他者の表現の魅力を感じ合い、刺激を受け、授業の共有感を持てる場を設定しました。

また、授業後半では、「プロジェクト」機能を用いて、グループでテーマに対する制作物を話し合いで決め、各自の制作作品をPowerPointに合成した共同作品を制作し、最終的にmovieにまとめ、公開共有しました。

●授業中に用いたツール

manaba（コンテンツ、レポート、掲示板、プロジェクト）、YouTube、画面録画機能

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：PC、iPhone

ソフトウェア：PowerPoint iMovie 画面録画機能 Photo Booth (Mac)

●成績評価の方法

各課題の内容70%（14回分なので、各回5点相当） 最終レポート30%

制作課題は、教材準備も必要、制作時間も個人差があるので、3～5日の提出期限の猶予を設定し、課題提出を持って出席としました。

●1回分の授業準備にかけた時間

平均3時間





栄養科 専門教育科目 食品と衛生 2年 選択科目

食品学各論

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として45分。

授業：ライブ配信で100分授業。

授業外学修：次回授業までに小テスト回答とダイジェスト動画の視聴

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

学生が、対面でなくPC画面を講義室としたときにどれだけ集中できるか？興味を持てるか？を重視した授業づくりを重視した。4月から授業開始までの期間にYouTubeなどで公開されている教育系のオンライン授業や、他のコンテンツを視聴し、どのような授業方法が適しているかを調査・吟味。また、その期間にデモ授業として履修学生のなかで希望者を募り、Webexだけでなく、Zoom、Google Meetなどで様々な手法の授業をテストし、配信環境や授業手法についてアンケートを行った。その結果から、最も授業に集中できる方法として、【ライブ配信授業+YouTube+manaba資料公開】を採用し、アンケート結果から、それぞれのツールの割合7:2:1で設定実施。

●授業中に用いたツール

Webex (チャット機能)：ライブ配信授業
manaba：授業外での小テスト、資料、質問(個別指導)

YouTube：授業内容のダイジェスト動画。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

PowerPoint：毎回のライブ授業では30～40枚のスライドを使用。**Cyberlink社Power Director**：スライドを解説する1つ5分間のダイジェスト動画を作製**YouTube**：ダイジェスト動画を公開。**manaba**：小テスト・資料作成、アップロード。

●成績評価の方法

manabaの小テスト機能を使用して中間・期末試験を実施。5択50問を60分間で回答。

中間・期末の平均点で評価

●1回分の授業準備にかけた時間

6時間

●その他記載

4月のデモ授業のアンケートから、資料(課題)提示・動画配信に比べて、圧倒的にライブ授業の評価が高く、授業にはライブ感が重要で

あると考えられる。但し、通常の対面授業をそのままライブ授業で実施することは授業効果としては低く、学生の満足度も低い。オンライン授業だからこそ対面よりも学生の発言のしやすさ、画面への視聴から授業への集中度は高いと考えて、ハンドルネームで授業参加させることでWebexチャット機能による活発な意見交換を促進させた。また、自身でも様々なコンテンツを体験した結果、ラジオのようなライブ感がライブ授業を盛り上げる大事な要因であることを実感した。そのため、オンライン授業を盛り上げることができた最大の要因は、チャット機能から学生が活発な意見を述べてくれたことが最大の要因であり、初めてのオンライン授業を学生が協力的に構築してくれたお陰である。



Writer

重村泰毅准教授
Yasutaka Shigemura
栄養科



栄養科 専門教育科目 栄養と健康 1年 必修科目

基礎栄養学

●授業タイプ

オンデマンド配信／リアルタイム配信

リアルタイム配信型とオンデマンド配信型を組み合わせで行った。資料・課題提示型は学生への負担が大きく、かつ理解度が低くなることから予想されたので採用しなかった。実際にやってみてここまで出来る仕組みがすでに整っていることに正直驚かされた。

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として60分。授業外学修として90～120分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

学生にとってわかりやすく、充実した満足度の高いものになることを心がけた。これはオンライン授業でも対面の通常授業でも同じだと思う。気持ちをほぐす意味で少し雑談も含めた。

●授業中に用いたツール

リアルタイム配信型はWebexで実施し同時に15分に区切って録画も行い翌日以降に公開し何度でも閲覧出来るようにした。オンデマンド配信型もWebexを使用し15分に区切って収録した。3～4本に分けてGoogle Driveにアップした。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

ハードウェア：ノートPC

ソフトウェア：PowerPoint、Excel、Word、ペイント

●成績評価の方法

manabaの小テスト機能を使用してオンライン試験を実施した。自動採点機能も使用でき採点の手間は無かった。

●1回分の授業準備にかけた時間

平均120分。前年度までに、すでにほとんどの内容のプレゼン資料はPowerPointで作成済みであったため今回は慌てずにすんだ。前年度までに1回90～100分の授業の準備にかけた時間は各20～60時間程度だと思う。



Writer

田地陽一教授
Youichi Tachi
家政学部
栄養学科



栄養科 専門教育科目 給食の運営 1年 選択科目

調理科学実験

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信／リアルタイム配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として135分。授業外学修として180分。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

大学にある機器類を使用した実験はできないため、実験結果を読み取り、考察をし、論理的にレポートにまとめる力を伸ばすことにフォーカスしました。しかし、測定原理や実験手技を学び、調理過程における現象変化を実際に捉えることも疎かにはできません。その点は、動画やライブ授業で解説しながら質疑応答で理解を深め、さらに自宅可能な範囲で実験をしてもらいました。

授業方法が複雑であったため、授業開始前にライブでオリエンテーションを行いました。その中で、「栄養士を目指すために調理学領域を学ぶ必要性」について、及び「シラバス内容」を説明しました。また、①PDF教材・オンデマンド動画・ライブ授業・自宅実験を通して調理現象を追究し、②クラス及びグループディスカッションを経て③レポートを作成するという授業の流れを説明しました。「レポートの書き方」、グループ活動に必要な「Google Meetの使い方」の説明も加え、不明な点が無いことを確認したうえで授業を開始しました。

●授業中に用いたツール

Webex：実験目的と方法の説明、クラス全員で一部実験データに関するディスカッション
manaba：授業連絡、授業スライド提示、実験レポート提出、個別指導、小テスト
respon：出席管理、自由コメント収集
YouTube：実験機器類を使用した測定デモ、

自宅実験の説明

Google Drive：ライブ授業の録画動画配信

Google Meet：学生のグループ活動

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

<ハードウェア>

iPad・iPhone：動画撮影・動画編集

<ソフトウェア>

Office：授業に使用するスライドの作成、配布資料・課題の作成

iMovie：動画編集

Perfect Video：動画編集

画像サイズ：動画で使用する画像の編集

●成績評価の方法

実験レポート 60%

グループ活動（学生間の相互評価）10%

オンライン試験 20%

チャットでの授業への貢献 10%

●1回分の授業準備にかけた時間

平均8時間程度。本科目は評価にも時間をかけました。レポートについて、クラス全体への講評と個別評価を毎回返却していました（評価時間は7～8時間）。

●その他記載

社会に出た学生たちが「コロナ世代の栄養士」と揶揄されないようにとの思いもあり、本科目はハードルが高く挑戦的な授業でしたので、高評価を頂けるとは思いませんでした。授業評価アンケートのコメントなどから推察すると、学生と一緒に授業構成を修正しながら進めていったことが、一定の評価につながったかもしれません。ライブ授業で悲鳴が上がれば、「どうしたら皆さんのスキルアップにつながり、どの程度までだったら頑張れそうか？」をとことんディスカッションしました。

また、グループで実験結果を報告し合い、データを整理して考察をする、デモ実験したデータをクラス全員で考える形にしたことで、自分以外はどのような視点でデータを読み取り、どう考察するかを知ることができたことは、学ぶ意欲や理解の支えになったようです。例えば「オンラインながらクラスで繋がっている感じがして心強かった」「グループ活動ができてとても助けられた」とのコメントももらいました。孤独に課題に取り組むことが多い中、自分が辛いこと、悩んでいること、このくらいだったら頑張れそうだ、などという気持ちが共有でき、自分の理解の程度を相対的に知ることができるのがライブ授業、グループ活動を取り入れる良さではないかと思います。但し、中にはグループ活動が負担な学生も若干名いました。いずれにしても、不安を抱えながらも懸命に難しい課題に挑戦し、成長しようとしている学生たちの姿勢や、明るく前向きな発言に、私自身が元気づけられ、学ばせてもらえました。

また、学科内、学科を超えて先生方から授業運営に関して情報交換をしていただいたこと、Google Meetのマニュアル作り、動画編集や配信、課題管理などについては近藤翼助教の支援がなくては授業が成り立ちませんでした。心から感謝申し上げます。



Writer

小林理恵准教授
Rie Kobayashi

家政学部
栄養学科





保育科 専門教育科目 臨床科目 2年 選択科目

子ども家庭支援論

●授業タイプ

資料・課題提示／オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業：70～100分程度（30分程度の動画＋時々15～30分程度の教材動画。途中でワークを挟んだりしています）

授業外学修：50～80分程度（授業前課題・授業後課題。時々15～30分程度の教材動画をプラス）

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

- 1.誰が見ても、1つの解釈しかできないように指示は明確にしました。
- 2.事例などを用いながら具体的な説明をするようにしました。
- 3.グループワークで事例検討したかったのですが、オンデマンドでは難しいので、提出された課題からいくつかを取り上げ、その意見のよいところ、考え方を広げられるようなヒントなどの解説を、次週のオンデマンド動画の冒頭に組み込み、他の学生の意見等に触れる機会を毎週作りました。
- 4.授業動画では、内容が転換するときには、新しいテーマを書いたスライドをはさみ5秒程度のジングルを入れ、切り替えを意識させま

した。

- 5.学習への気持ちの切り替えのため、授業動画冒頭と終わりに15秒程度のBGMを入れました。

●授業中に用いたツール

授業動画（ナレーション付PPT）、教材動画（市販DVD、NHK番組）、PPT配布資料

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

- ①manaba：コースニュース、掲示板、コンテンツ、レポート、小テスト、個別指導コレクション、respon
- ②講義動画：PowerPointでナレーションを録音し、MP4化してYouTubeにアップしました。ヘッドセットを使用。動画中のBGMやジングルは、著作権フリー音楽サイト（<https://dova-s.jp/>）よりDLしました。
- ③教材動画：市販DVD（オンライン利用許可済）やNHK番組の録画は、オーディオインターフェイスという機械をPCにつなぎ、映像をWindows10標準装備の「ゲーム」でキャプチャーし、「フォト」でトリミングし、YouTubeにアップしました。

●成績評価の方法

「テスト70%＋課題30%の総合評価」のシラバス記載通りです。テストは制限時間を設け、manaba「小テスト」で実施しました。

●1回分の授業準備にかけた時間

新規科目だったため、準備には時間がかかりました。

PPT作成3時間、ナレーション原稿作成2時間、録音と確認とMP4変換1時間半、市販DVDや番組録画を使用するときは、YouTubeアップのために1時間ほどです。

●その他記載

学生から、リアルタイムで他の学生や先生と話す機会が欲しかったという意見があったので、今後はオンラインでのグループワークを取り入れたいと思います。



Writer

平野順子准教授
Junko Hirano
保育科



共通科目 教職関連科目 1年 選択科目

教育原論

●授業タイプ

オンデマンド配信

●1回当たりの学修時間の想定

授業時間として100分。授業外学修として200分。

オンデマンドで動画を配信しました。1本あたり10分～20分の動画を、1回の授業で4・5本配信しました。

大学生の集中力が続くのはだいたい15分程度だと聞いているので、1つのテーマにつき15分程度でまとめるようにしました。

課題ひとつひとつはそんなに重くないはずですが、動画1本につき課題1つを出したので、合計するとけっこうな量になりました。

●どんなことを重視して授業の準備をしたか

「教育原理」という科目を担当する以上、「これが教育学のブロが作るオンライン授業だ！」

ということを学生に見せなければいけないというプレッシャーがありました。

教育学が積み重ねてきた様々な知見を、実践に盛り込んでみました。

●授業の準備に用いたハードウェア、ソフトウェアなど

- ・PowerPointの様々なテンプレート
- ・Premiere Elements（動画編集ソフト）
- ・Photoshop
- ・「いらすとや」のイラスト
- ・フリー音楽素材
- ・高いマイク
- ・疲れないマウス

●成績評価の方法

課題と期末テスト。

●1回分の授業準備にかけた時間

15分の動画を作るのに2時間かかりました。

5本だと10時間で、まる一日つぶれます。

同じ授業が学科別に3コマあり、本来の対面でも100分×3コマ＝5時間かかりますので、動画作成に時間がかかってもコスパはそんなに悪くはないはずだ……と思いながら、なんとか続けました。しかし毎週のことだと、けっこう大変です。



Writer

鵜殿篤准教授
Atsushi Udono
保育科